

季刊・令和7年1月15日発行・第61巻第1号（通巻505号）

ISSN 0014-9586

# Feed Trade

WEB版

VOL. 61 NO. 1



2025

1  
~3

飼料輸出入協議会

JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION

2025年 1～3月号



## 目 次

- 新春のご挨拶／下石川 哲…… (2)
- 年頭のご挨拶／金澤 正尚…… (5)
- <新春海外だより>
- ブダベスト／古賀 良二…… (9) ホーチミン／鈴木 康太…… (16)
- シカゴ／尾上 翔太…… (22) アムステルダム／吉田 賢三… (28)
- ソウル／吉武 広樹…… (32) バンコク／藤原 玄…… (38)
- ミネアポリス／三輪 佑史… (44) シドニー／片岡 拓巳…… (50)
- 国内の牛肉骨粉の鶏・豚用飼料への利用再開／森垣 孝司…… (54)
- 2024年10大トピックス…… (63)
- 第56回 (2024年) Feed Tradeアンケート当選者発表…… (64)
- 第57回 (2025年) Feed Tradeアンケートのご案内…… (65)
- シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第42回  
「紫峰もち豚」のご紹介／栗山 夢歌…… (66)
- シリーズ●各地の食生活——第20回  
フィリピンの庶民的料理／瀧口 詩音…… (71)
- シリーズ●各商社の担当者紹介⑰ 豊田通商株式会社  
我が社の飼料・油糧原料担当者のご紹介…… (77)
- 「新春賀詞交礼会」盛大に開催…… (81)
- 春季為替セミナー開催のご案内…… (86)
- New Balance<20>
- 米国ドル高と豊作見通して、底値鍛錬が続いたシカゴ定期／岩崎 正典……(87)
- 編集後記…… (110)

# 新春のご挨拶



飼料輸出入協議会理事長

下石川 哲

(三井物産(株)食料本部 食糧事業部長)

新年あけましておめでとうございます。旧年中は関係先の皆様方より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年の幕開けにあたり、飼料輸出入協議会を代表いたしまして、新年のご挨拶を申し上げます。

2024年を振り返りますと、私たちにとって多くの試練と変化がありました。1月には能登半島で大震災が発生し、その後の豪雨による被害を含め、現在もなお十分な復旧には至っておらず、自然災害への備えの重要性を強く意識することになりました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、昨年は歴史上最多と言われる80カ国で選挙が実施される選挙イヤーでした。世界的に政治不信が広がる中、日本以外の国々でも与党の過半数割れや野党の躍進が見られました。ロシアによるウクライ



ナ侵攻は長期化し、ガザ和平の実現の道のりも不透明で、シリア政権が崩壊するなど地政学リスクの顕在化した年でした。このように世界情勢が不安定な中、昨夏の連続猛暑に見られるように異常気象の懸念が益々広がり、日本でも食料安全保障が一層意識されるようになりました。「食料・農業・農村基本法」の改正等により、官民をあげた新たな動きも出ています。足元では主要産地での豊作を受けて、穀物相場は落ち着いているものの、年末には再び円安進行が加速し、原料輸入コストにも大きな影響を与えています。人手不足の中での物流網の在り方の見直しなど、構造転換も求められています。

もっとも、社会全体に目を向けると明るいニュースも多くありました。日経平均株価が史上初めて40,000円を超えるなど、経済面での大きな動きが見られました。渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎の肖像による新紙幣発行が日本の貨幣経済に新たな息吹を吹き込むことも期待されます。スポーツ界では、大谷翔平選手がドジャースで大活躍、ワールドシリーズ制覇と3度目のMVPを獲得し、笹生優花選手が全米女子オープンで2度目の優勝を果たすなど、世界最高の舞台での若い日本人選手の素晴らしい活躍が目立ちました。さらに、パリ五輪では

---

日本が海外の夏季五輪で過去最高の成績を収めたことも記憶に新しいと思います。その他、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が開発した小型探査機「SLIM」が日本初の月面着陸に成功したことも、日本の技術力の高さも世界で注目されました。

こうした激動の一年を経て、2025年が皆様にとって明るい年となることを心より願っております。2025年は干支の「巳年」にあたります。巳は成長と変化を象徴し、新たな始まりを意味します。2025年に開催される関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、未来社会のデザインや国際交流が進むことが期待されています。これにより、私たちの業界にも新たな視点や技術がもたらされることも望まれます。

本年は飼料業界がさらに発展し、皆様一人ひとりが輝く年となりますよう、心より願っております。飼料畜産業界並びに関係官庁の皆さまのご指導をいただきながら、業界の持続的な発展と食料の安定供給に力を尽くしてまいりたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

---

# 年頭のご挨拶



農林水産省畜産局飼料課長

金澤 正尚

新年、明けましておめでとうございます。

令和7年の新春を迎えるに当たり、年頭のご挨拶を申し上げます。

## ○はじめのご挨拶

貴協議会の皆様におかれましては、日々飼料原料の安定供給にご尽力いただき、この場を借りて心から御礼申し上げます。世界情勢の変化が加速する中、飼料原料を安定的に、かつ、できるだけ安価に調達することがますます重要になっています。引き続き原料供給の安定化のためにお力を賜りたくお願いいたします。

## ○配合飼料をめぐる情勢

昨年の配合飼料をめぐる情勢を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や歴史的な円安等により高騰していた輸入原料価格は、主産国におけるとうもろこしの二年連続の豊作等により、ようやく低下の兆しが見え始めました。しかしながら、円安基調の継続等により、配合飼料価格は依然高い水準が続いています。

このような高止まりの状況に対しては、畜種ごとの経営安定対策や金融

---

支援等、各種施策を総合的に活用し、引き続き、畜産生産者の経営及び食料の安定供給を支援してまいります。

#### ○配合飼料価格安定制度について

令和2年度以降の配合飼料価格高騰に対し、5,700億円を超える補填金を生産者に交付し、激変緩和の機能を果たしてきました。一方で、補填を行うために民間、国ともに巨額の財源負担を要したことで、関係者からはその持続可能性について、懸念の声が示されました。

このため、昨年2月に、農林水産省が事務局となって基金関係団体が参画する「配合飼料価格安定制度のあり方に関する検討会」を設置し、制度の在り方について検討を進めました。

本制度の見直しに当たっては多くの論点があり、それに対する関係者間の意見は大きく異なっております。他方、借入れを行って補填金を交付することは、補填金を受け取って離農する生産者の分まで経営を継続する生産者が将来にわたって負担することになり、現行制度をこのまま維持する場合、その持続性に問題が生じかねません。特に、輸入原料価格の急激な上昇がまたいつ生じるか予見できないことを踏まえれば、この課題を早急に解決する必要性がありました。

このため、生産者が望まない負担を回避しつつ、安定的に補填金が交付されるよう、

- (1) 各民間基金の財源保有水準を高めることなどにより財源を枯渇しづらくするとともに、
- (2) 各民間基金が足並みを揃え、同一単価で補填することを基本とし、財源が不足する場合などに各民間基金が借入れの是非を個別に判断することを可能にすることを、

令和7年度からの運用改善の方向性として、昨年10月に、農林水産省畜産

---

---

局の責任でとりまとめました。引き続き、関係者とともに本制度の的確な運用に努めてまいります。

#### ○飼料輸送の合理化

物流の2024年問題の中で、飼料輸送についてはトラックドライバー不足に加え、飼料納品時のタンクへの昇降などの高所作業等の飼料輸送特有の負担が大きく、人員確保がより困難になっているとの声が上がっています。畜産経営にとって、飼料の輸送が滞りなく行われることが欠かせないことから、飼料輸送の効率化や作業時間の削減、運転手の安全面への配慮等を図っていくことが重要です。

農林水産省では、生産者や飼料メーカー・販売店に対して飼料輸送体制の維持への協力をお願いするチラシの作成・発出や、飼料タンクの安全性確保等の徹底に関する通知を発出するとともに、農場内での高所作業の負担を軽減するための飼料タンク蓋遠隔開閉装置の導入やストックポイントの活用等の輸送効率化の取組を支援しています。引き続き、飼料輸送の合理化を図り飼料の持続的な流通体制が確保されるよう努めてまいります。

#### ○国産飼料生産・利用の拡大に向けた取り組み

我が国の飼料自給率は27%と、多くを輸入に依存しております。こうした環境において、飼料を安定的に供給できているのは、貴協議会会員の皆様のご尽力の賜です。一方で、飼料価格の高騰・高止まりにより、海外からの安定的な調達はもとより国内での飼料生産の重要性がより高まっています。

引き続き、国産飼料の生産・利用の拡大に向けまして、耕畜連携や飼料生産組織の体制強化等の取組を支援してまいります。



---

### ○飼料原料の安定供給

昨年5月、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正（以下、「改正基本法」）されました。改正基本法では、「食料安全保障の抜本的な強化」を掲げ、関連する基本的施策等を定めています。飼料の安定供給を確保するため、飼料原料の輸入先国の確保や多様化、情報の収集等にお力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

最後になりますが、今年は「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」等の見直しの年となっています。改正基本法を踏まえ、関係者全体で議論を深めながら、将来への希望が持てる持続的な畜産・酪農を構築できるよう努めてまいります。今後も、皆様からの畜産・酪農行政へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層のご健勝とご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶といたします。



新春海外だより



## ブダペストより新年のご挨拶

丸紅(株)ブダペスト支店

古賀 良二



皆様、新年明けましておめでとうございます。ハンガリーはブダペストより謹んで新年のお喜びを申し上げます。

2017年に東京からNYへ転勤した後、2021年にサンパウロに異動。そして昨年の4月にブダペストに赴任しまして、その間日本で年末年始を過ごしたのは一度だけ。しかしながら、それぞれの国でその国のお酒を飲みながら、大晦日は日本の紅白歌合戦を観たりして年越しを過ごしており、それはそれで悪くはないものです。

### ■ハンガリーのお酒

お酒の話が出たところで、まずはハンガリーのお酒についてお話ししましょう。ハンガリーで一般的に良く飲まれているお酒として代表的であるのは、消費量の順に言うと、①ビール、②ワイン、③パリンカ、でしょう。ここではビールの話は割愛させていただき、ワインとパリンカに触れていきます。



ハンガリーのワインと言えば、まず1番目に来るのはトカイワインの「トカイアスー」。世界三大貴腐ワインの一つで、甘さが特徴で、食後酒として冷やして飲むのが一般的です。甘さの度合いが「プットニョス」という単位であらわされており、通常3～6プットニョスまであり、数字が大きくなるほど甘くなります。その他、「フルミント」と呼ばれる白ワインもあり、シャルドネに似た風味で飲みやすいですが、ほぼ輸出向けには出ていません。そういう観点からも、ハンガリーに来られれば、ハンガリーワインを楽しんでいただくことをお勧めします。好きな方は、ブダペストから2.5時間ほどドライブしてトカイ地方まで足を延ばしていただき、ワイナリー巡りをされるのも楽しいでしょう。

もう一つワインの産地として有名なエゲル。ブダペストから車で1.5時間程度のところにありますが、ここは「ビガヴェール」と言われる赤ワインが有名。ビガヴェールとは「牝牛の血」を意味しており、それは16世紀にオスマントルコの侵攻を受けた時のエピソードに関係しています。ハンガリーの一部は16～17世紀にかけてオスマン帝国の支配下にありましたが、エゲルでは激しい戦闘が行われたことで有名。エゲルの領主イシュトバーン公が兵士たちの士気を高めるために赤ワインをふるまい、兵士たちがそれを飲む様子を

見たトルコ軍は、牛の血を飲んでいると勘違いし恐れおののき撤退したという。。これがこのワインの名前の由来です。トルコはワインの有名な産地ですが、オスマントルコ帝国はイスラム教徒がお酒を造ることを禁止していました。

さて、続いて「パリンカ」について。パリンカはハンガリーの伝統的な蒸留酒で、プラム、アプリコット、チェリー、洋ナシ等の果物が原料。食前酒としてショットグラスでストレートで飲むのが一般的です。名前は異なりますが、周辺国のチェコやセルビア等、中東欧で広く親しまれています。但し、アルコール度数は40～60%であり、ブラジルで言えばサトウキビの蒸留酒「カサーシャ」、中国なら高粱の蒸留酒「白酒（バイチュー）」と同様の破壊力を有しており、少し注意が必要です。

## ■ハンガリーの食べ物

ハンガリーに来られた方に必ず食べていただきたいのが「フォアグラ」です。食べ方は、ソテー、パテ等幾つかありますが、特にソテーはレストランにより焼き方やソースがかなり異なりますので、自分のお気に入りのお店を探すのも楽しみの一つです。ハンガリーでは2022年にインフレ率が20%を超え、過去20年間で最高値を記録。これにより以前のように破格値でフォアグラ

が食べられるという訳ではありませんが、写真のフォアグラソテーにポテトとリンゴのソテー付け添え（ブルーベリーソース）一皿で円貨換算で3千円程度というのは、他国で食べるのに比べると依



然かなりリーズナブルと言えるでしょう。また、フォアグラがあるということは鴨肉も有名で、私はだいたい鴨肉のソテーをオーダーするのが定番となっています。

一方で、不思議なのは牛肉を食べる文化が余りないということです。気候風土はなんとなく、米国の中西部に似ています。私は2008～2011年に米国イリノイ州の片田舎に駐在したことがあり、どこまでも続くトウモロコシ畑や、内陸部特性の乾燥した気候、そして流れる大河（イリノイはミシシッピ川、ハンガリーはドナウ川）等、共通点が多いことからなんとなく懐かしさすら感じるのですが、ハンガリーはほぼ肉食ながら、主に食べるのは豚、鶏、鴨となっており、牛肉はスーパーの肉売り場でも隅に追いやられています。海から離れたハンガリーでは、シーフードの選択肢は極めて少なく、私が旅行で海に面した国に行く場合の食事は、ほぼシーフード一択となります。

なお、日本食に関しては、観光都市のブダペストでさえ、ベトナム人やローカルの人が経営する、なんちゃって和食レストランしかほぼありません。最近、ブダペストで日本人の若手起業家のお兄さんが和風ラーメン居酒屋を4店舗運営しており、ようやくこれからリアル日本食の普及が進んでいくのではと期待しております。今後の商売規模拡大や日本からの食材調達等について協力の相談を受けたりしており、ハンガリーにおられる日本人駐在員の方々、日本からの出張者の方々や、もっというと自分の生活のためにも、ここは一緒に頑張っていきたいと思っていますのでご期待下さい。

## ■ハンガリーの観光

ブダペストは「ドナウの真珠」と称される非常に美しい都市であり、市内の真ん中を流れるドナウ川を挟んで西側に位置するブダ地区と、東側に位置するペスト地区に分かれます。それらをあわせて「ブダペスト」です。ブダ地区には、13世紀に建てられたブダ城、マーチャーシュ教会、漁夫の砦といった観光スポットが丘の上に集中しており、そこから見下ろすドナウ川は絶景です。ペスト地区には国会議事堂（世界で一番美しい国会議事堂と言われ



る：写真) や、温泉の都として知られるブダペストの象徴とも言えるセーチェニ温泉があります。世界で一番美しいシリーズで言えば、ブダペスト市内には「世界で一番美しいマクドナルド (⇒ ブダペスト西駅の店舗)」「世界で一番美しいカフェ (⇒ New York Cafe)」があります。市内の公共交通機関も、バス、トラム、地下鉄が発達しており、これらを乗りこなすことで大抵の観光地を廻ることが出来るため、年中観光客で賑わっています。週末の土



日で十分観光できてしまうコンパクトさもあり、どちらかと言えば欧州内からの観光客が多いように感じますが、最近ではEV（電気自動車）産業においての中国・韓国企業のハンガリー進出が急伸しており、両国からはブダペストへの直行便が運航。特に中国からは週に20便近くの直行便が飛んでいることから、有名レストランは中国人観光客の予約が目立ちます。

## ■ハンガリーと日本の共通点

### ①温泉文化

観光の部分で述べましたが、これは日本との大きな共通点です。ブダペストには上述のセーチェニ温泉以外にも多くの温泉が存在します。但し、混浴かつ、水着着用が義務付けられておりますので、日本の温泉同様に入浴すると全裸逮捕という恥ずかしい状況になってしまいますのでご注意ください。江頭2:50とかは絶対連れてこれませんが、「エガちゃんねる」に一応情報シェアはしておこうかと思えます。

### ②名前の順序

ハンガリーでは名前の順序が日本と同じく「姓／名」の順になっており、極めて珍しい特徴です。ハンガリー語は世界一難しい言語の一つとも言われており、他のヨーロッパ言語が属する語族とは異なります。普通の日本人だとほぼ読めない長い単語が多く、ハンガリー語習得のモチベーションを絶望的に失わせてくれます。最近では若い世代を中心に、基本的には英語を喋ることが一般化しており、日常生活においては英語だけで生活することも可能と言っているかもしれませんが、スーパーでの買い物等の際にはGoogle翻訳が必需品で、パッケージの絵柄で内容を推測するか、Google翻訳を当てて確認するという手間が必要となります。先日は、サバ缶を買うはずが、イワシ缶を買ってしまいました。昔の駐在員はもっと大変だっただろうと思えます。

### ③蒙古斑

蒙古斑は通常、モンゴロイド系民族特有のものであり、アジアの民族に多く見られるものですが、ハンガリーの赤ちゃんにも蒙古斑が見られることが

あります。これはハンガリー人の祖先がアジアから移動してきた歴史に由来していると考えられており、13世紀のチンギス・ハンの征服により、ハンガリー人とモンゴロイド系の混血が進んだためと言われています。ハンガリーは現在7カ国と国境を接しており、ハンガリー帝国時代には周辺国の一部を領土としていたのも、昔騎馬民族として栄えた歴史と関連しているのかもしれませんが。

## ■ソ連時代の名残

ソ連時代に建設されたインフラは現在も多く残っており、特にブダペストの郊外には社会主義時代の団地や工場が見られ、ノスタルジーを感じさせます。ハンガリーは、ソ連解体の1991年の前、1989年に民主化を果たし、国有企業の民営化が進められました。2004年にはEU加盟を果たしましたが、2023年の統計によればハンガリーの一人当たりGDPはEU加盟27カ国中23位。まだまだEU西側諸国とのギャップは依然大きい状況です。実際に仕事をしていて感じるのは、交渉ごとにおいて「ハードネゴ」をするのは美德とされておらず、あくまで私の個人的見解ですが「お金にガツガツするのは格好悪い」という風潮がハンガリー人にはあるように感じています。国際ビジネスにおいては、お互いにフェアに厳しく交渉するということが求められるため、この辺のマネジメントは多少苦労するというのが本音ですが、これも社会主義時代の名残だろうと思っています。



最後は少し硬い話になってしまいましたが、なんだかんだ言ってもハンガリーは欧州の一国であり、街の雰囲気、建築物の美しさ、音楽などの芸術、食事などのレベルの高さは目を見張るものがあります。私、個人的には、複雑な歴史背景に更に探求心を刺激されており、皆様にも一度当地を訪れていただくことは絶対にお勧めです。新たな年を迎え、今年はこれまで行ったことのない国を旅してみたいと思われる方は、是非ともハンガリー旅行をご検討ください。お待ちしております。



## 社会人 15 年目で初の駐在員生活

Japan Vietnam Livestock Co., Ltd

鈴木 康太



皆様、新年あけましておめでとうございます。ベトナムホーチミン市より、飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆さまへ、新春のご挨拶を申し上げます。

社会人15年目にして初の駐在員生活です。赴任して早くも半年が経ちました。これまで日本の飼料畜産業界に身を置き、若手の時から業界の方々に大変お世話になり、また鍛えていただきました。今は国は違えど、これまでの経験と皆さまとの人脈を引き継ぎ、同じ業界に身を置くことができること、またこうしてご挨拶の機会をいただくことを大変うれしく思っております。

### ◆今の仕事内容

私は、ビナミルクと双日がJointで2021年に設立したJapan Vietnam Livestock Co., Ltd社（JVL）に出向しております。この事業はベトナムで肥育、生産、加工、販売までを一貫して行うもので、私は肥育部門を担当しております。牛の肥育に関わる、エサの調達から設計、農場で使用する機械、給餌方法、敷料交換、糞尿処理全般を行っております。

北から南まで、地方の農場に行く機会が多いのですが、ホテルが無い街に行くことも少なくありません。農場の寮かモーターに泊まりますが、朝4時にはニワトリの鳴き声でアラーム設定無しに目を覚まします。また、農場特有のニオイにもすっかり慣れてきて、異臭を感じることも無くなってきました。人間の適応力・慣れは恐ろしいものだと思います。

## ◆祭りと行事を大切にす文化

ベトナムでは少ない祝日を一層盛大に祝い、家族や地域の結びつきを大切にす風習があります。旧正月「テト」はその代表例で、街中が赤や金の装飾で彩られ、人々が新しい年を迎える準備に励む様子は日本の正月にも似た雰囲気です。また、職場でも行事やお祝い事が大切にされています。当社でも、つい先日3周年記念を迎えましたが、オフィス中が風船だらけになりました。

また、傾向として、女性が祝われる行事が多いです。つい先日10月20日には「ベトナム女性の日」で、男性社員から女性社員に花や小さな贈り物が贈られました。またこれとは別に世界でも一般的な、国際女性の日、バレンタインデー、母の日などもありますが、男女問わずプレゼントを送りあうこと



農場でのスタッフとの一コマ：広いので自転車に乗って移動することが多いです。



3周年記念パーティーでの一コマ

もありますが、女性が特別に扱われる文化が根付いており、これは伝統的な宗教や価値観、またベトナム人の恋愛観にも基づいているようです。

#### ◆ホーチミンでの生活

この地の文化や人々の生活に今ではすっかり馴染めました。。と言いたいところなのですが、仕事も日常生活も未だに新しいことが次々と起き、予測不可能なことが多く起きる毎日です。ベトナムが、つい先日人口1億人を超え、平均年齢が約30歳と若く、成長著しい国であることは既知の通りと思います。

## ◆イヤホンをつけず爆音

ベトナムの人たちの大半はスマホを片手に、電話で話す時、音楽を聴くとき、動画を見る時、イヤホンをつけません。常に音を出す中ですが、周囲も意に介さないため、自然な空気が流れています。先日、飛行機に乗っている時、隣の年配女性が携帯で『つむつむ』らしきモバイルゲームをやっており、あまりにも音が大きかったので、たまらず音を下げようお願いします。まだまだ私は修業が足りません。

## ◆低い机で、カフェ文化

日本の居酒屋文化に近い、独特のカフェ文化がベトナムにはあります。巷では「ローカルカフェ」や「ストリートカフェ」として知られており、街中で見かけることができます。皆、定番の「カフェスアダー」（練乳入りのアイスコーヒー）や「カフェダ」（ブラックアイスコーヒー）などを楽しみながら、



家の近所にあるカフェでの光景：夜10時過ぎですが、皆楽しそうに雑談しています。

お酒は入らずとも、低い机にカフェを並べて、周囲の景色や人の流れを見るのを好み、皆思い思いに何時間でも雑談をします。このスタイルは、フランス統治時代に伝わったカフェ文化がベトナムの庶民的なスタイルと融合して生まれたようです。私も何度かトライしていますが、甘い飲み物やカフェイン入りのものを夜に飲むのは慣れず、やはり夜はアルコールを取る居酒屋文化の方が、自分の性に合っているようです。

## ◆自然

都市部ではホーチミン、ハノイ、ダナン、ホイアンが有名で、観光地としてはリゾート地のニャチャンやフーコックも広く知られています。しかし、名の知られていない地方都市にもぜひ足を運んでいただきたいです。例えば、南部にあるコンダオ島は、フランス植民地時代に政治犯を収容する監獄として建設され、その後もベトナム戦争中に使用されました。現在では美しい海や国立公園が楽しめるリゾート地として知られています。また、ウミガメの産卵地としても有名です。

その他、ホーチミンから車で2～3時間ほどのタイニン省やピンズオン省にはキャンプ場がいくつかあり、澄んだ夜空や湖、自然の美しさを堪能することができます。

## ◆歴史

ベトナムといえば、ベトナム戦争などの負の歴史が想起されることが多いですが、フエの古都遺跡群やホイアン旧市街など、一部のエリアが世界遺産に登録されています。また、地理的に中国の南、インドシナ半島の東側に位置しているため、多様な国の文化が流入しやすく、それらを積極的に受け入れながら独自に発展させてきました。

例えば、南部のチャンパ王国はオーストロネシア系民族であるチャム族の文化を基盤に持ち、インドからのヒンドゥー教やイスラム教、仏教といった宗教文化を寛容に受け入れ、それを独自に発展させました。このような寛容



タイニン省のバーデン寺での撮影：仏像が大きいです。

さは、現代のベトナム人の寛容な気質にもつながっていると言えるでしょう。

#### ◆今年の抱負

ベトナムは急速に発展している国であり、エネルギッシュな若者たちが未来を切り開くために日々努力を重ねています。私もここでの経験を通じて、多くのことを学び、成長していきたいと感じています。来年中にも北部 Tam Đảo にて新工場、農場がオープンする予定になっております。皆様から鍛えていただいたご恩にも報いるべく、少しでもベトナムでの発展に貢献できるよう、引き続きベトナムの地で努力を重ねる所存です。

最後になりますが、飼料輸出入協議会会員および関係者の皆さまのご健康とご多幸、そして本年が皆さまにとって素晴らしい一年となりますよう、ホーチミンより心からお祈り申し上げます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

## 寒い寒いシカゴから

—大谷フィーバーとカプス日本人選手の活躍など

Kanematsu USA Inc.

尾上 翔太



飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆さま、新年明けましておめでとうございます。アメリカはシカゴ郊外より謹んで新年のお慶びを申し上げます。

『Feed Trade』に寄稿させていただくのは、1年強前の2023年10-12月号(通巻500号)以来となります。2022年10月に当地に赴任し、2年強が経過しました。あっというまであったのと同時に今年もシカゴには寒い寒い冬がやってきました。

皆様ご承知の通り、昨年は何と言ってもアメリカのトウモロコシ・大豆の大豊作が業界大ニュースかと思います。トウモロコシは過去最高単収がほぼ確定しており、大豆についても過去最高レベル同等となる見込みです。昨年も何度も圃場に足を運びましたが、いつ見ても非の打ち所がない状況で、収穫もだいたい地域で、例年に比べ2~3週間早く始まりました。それでも欲を言えば、6月ごろまでと8月ごろの降雨量が若干少なかったことが指摘されており、逆に言うとまだ伸び代があることを意味しております。今後も順調に単収が増大していくことが楽しみです。

続いてやはり昨年のアメリカでの出来事で避けては通れないのは大谷選手の大大活躍でしょう！ スポーツ好きのアメリカ人にとっても衝撃的な活躍で、日本のみならず当地でも連日報道され、まさに大谷フィーバーでした。事前の予想通り、MVPを獲得されたことは皆様のご記憶に新しいことと思ひ、また私が言うまでもないですが、指名打者(DH)専任の選手が獲得するのはメジャー史上初。両リーグでの受賞はフランク・ロビンソン(61年レッズ、66年オリオールズ)以来史上2人目、リーグをまたいでの2年連続受賞は史上



初の快挙となりました。本塁打だけでなく盗塁数も順調に重ね、メジャー6人目の“40本塁打-40盗塁”を史上最速の出場126試合目で記録し、さらにメジャー初となる43-43を達成すると、“50-50”の大台に到達し、最終的には



「54本塁打—59盗塁」をマークしました。個人的には、52—52を達成した試合を生で見られたことは一生の思い出です。

とは言え、私の住むシカゴエリアで野球と言えば、カブスとホワイトソックスです。中でもカブスには鈴木選手と今永選手が在籍しており、何度も応援に駆け付けました。鈴木選手は尻上がりに調子を上げ、今永選手は良い意味で予想を裏切る大活躍！ 惜しくもポストシーズンには進むことができませんでしたが、十分に楽しませてもらいました。ちなみにホワイトソックスにも触れておきますと、昨季は41勝121敗、勝率.253という凄まじい数字を叩き出しました。121敗はMLBのシーズン最多敗戦数を更新、勝率なのかチーム打率なのか分からないレベルの勝率。夏前には観客よりも選手の数が多いと揶揄されたほどです。思い出したのが阪神の暗黒時代ですが、それでも最低勝率は.331と大きく上回っております。笑（念のために申し上げますが、私は大の阪神ファンですので、愛情を込めて言っております。）



話を元に戻しまして、カブスとドジャースは同じナショナルリーグですが、地区が違うためそれぞれのホーム球場で3連戦が年間で1回ずつしかありません。4月の頭にカブスの本拠地であるリグリーフィールド、9月の半ばにドジャースの本拠地であるドジャースタジアムで試合が行われました。4月の試合には私も家族とともにリグリーフィールドを訪れましたが、この3連戦はシカゴエリアの日本人は全員行ったのではないかと、いうぐらいでした。両球団の配慮もあり？ 山本投手と今永投手が1試合ずつ投げ、大盛り上がりでした。

話は変わりますが、ニュースなどでご存じの方も多いかと思いますが、アメリカは近年物価高が激しく、皆頭を悩ませています。ちょうどカブスの話をしましたので、こちらのバット型ビールはUSD35（税抜き）です。お土産の要素もありますので、

致し方ないとは言え、それを差し引いてもこの値段はなかなかです。娘が欲しいと言いつつ、二人おりますので、歯を食いしばりながら2本購入しました。泣…。

私の住むシカゴ郊外では、ランチに行くと税・チップ込でだいたい平均USD20ぐらいはします。都会にいけば、平均でUSD25～30ぐらいになりますし、これを平日週5でやると,,,,, 考えると恐ろ





しいので、基本的には弁当やカップ麺で凌ぐ生活です。例を出すとキリがないのですが、一つ分かりやすいのは無農薬品を多く取り扱う Whole Foods の生絞りオレンジジュースです。本当においしく毎日でも飲みたいのですが、16 FL OZ ≒ 480ml で税抜 USD 7 です。

冒頭でも少し申し上げましたがシカゴは寒いことでも有名で、だいたいシーズンに一回は -25℃ ぐらいまで下がる時があります。長年当地にいらっしゃる方曰く、10年ほど前だとそれがシーズンに3~4回ある、これも温暖化の影響かなと仰られていますが、関西（瀬戸内）出身の私としては温暖化を感じることはありません。今シーズンも11月最終週ごろから最高気温でも氷点下の日々が続き、いつ大寒波がくるのかと恐れています。それでもアメリカと言えば正月よりもクリスマスを大事にする文化があり、その時期はイベントも盛り沢山で、寒い中皆外に出かけます。大人はホット





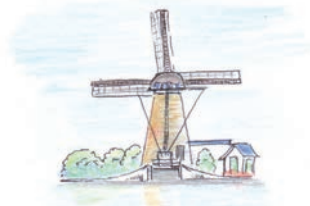
ワイン，子供はホットココアを飲みながら，大きなクリスマスツリーを見たり，ビルなどの装飾を楽しんでいます。

最後になりますが、「ポストコロナで海外からの渡航客もかなり増加しております。有難いことに今年は4年ぶりにお客様にもたくさんシカゴに来ていただきました。是非もっともっとシカゴにお越しいただき，その際はお声がけいただければと思います。」と，約1年前に書かせていただき，2024年は更にもっとの方々にお越しいただきました。ということで，2025年は是非“もっともっと”シカゴにお越しいただき，その際はお声がけいただければと思います。当地では本年1月20日にトランプ大統領が就任し，また色々と状況が変わっていくことと存じます。2025年が皆様にとってより良い一年になりますことをお祈りしております。今後ともよろしく願いいたします。

## 常識外れの物価高の背景

東食ビジネス 海外事業本部 スキポール支店

吉田 賢三



飼料輸出入協議会会員，並びに関係者の皆様，あけましておめでとうございます。

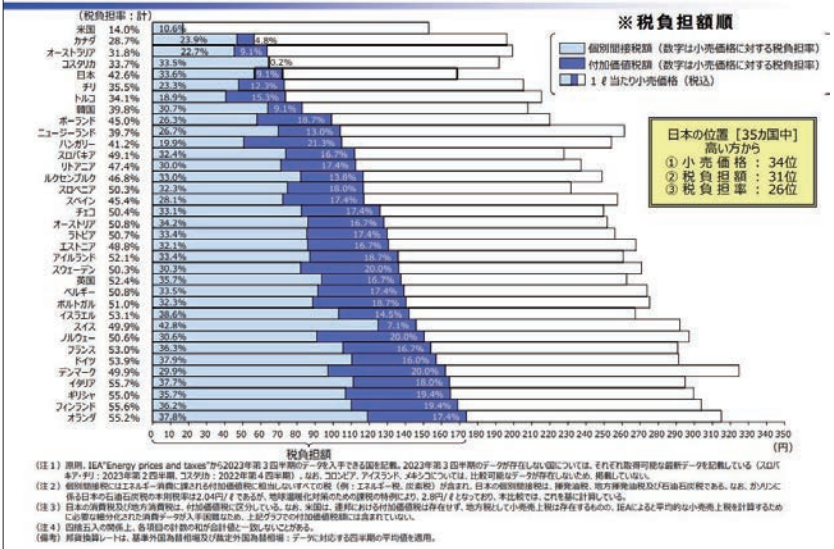
オランダ・アムステルダムより心より新年をお慶び申し上げます。

22年末から駐在を始め、2年が経ちました。言葉（読み・会話ともに全く上達しない）、気候（春夏が短く、冬が長い）、食事（バリエーションが少ない）など、日本がいかに恵まれているかを痛感する日々を過ごしております。その中でも物価は日本人の常識を大きく外れており、週末のスーパーのレシートを見ると毎度愕然とします。オランダの物価が高い背景はいくつかの要因があります。

まず、オランダは住宅不足が深刻で、家賃が高止まりしています。賃貸サイト「HousingAnywhere」調べによると、EUで最も家賃の高い都市トップ10は、1. アムステルダム、2. ローマ、3. パリ、4. ロッテルダム、5. ハーグ、6. ミュンヘン、7. ユトレヒト、8. ミラノ、9. リスボン、10. ハンブルク。アムステルダムはローマ、パリの大都市を抑えての1位。10位以内にオランダから4都市もランクインしており、その状況が伺えます。

次に、2022年のロシアによるウクライナ侵攻以降、エネルギー価格が大幅に上昇しました。右記はOECD各国のガソリン価格と税金の比較グラフ（出典：財務省）ですが、ご覧の通りオランダは38か国中価格2位（315円/L）となっております。私も家族で週末ドイツまで車で足を延ばすことがあれば、帰り道には必ず国境付近のガソリンスタンドに寄って、満タンにして帰宅します。そんなドイツですら、24/12/10付日経新聞記事によると、電気代が米国の2.7倍、中国の2.1倍で、独フォルクスワーゲンは創業以来初の独工場

OECD加盟国（38か国）におけるガソリン1ℓ当たりの価格と税の比較（2023年第3四半期）



閉鎖を計画しているとのことで、西ヨーロッパのインフレは経済成長の伴わない、いわゆる「悪いインフレ」となっています。

オランダに話を戻し、インフレ率は1981年以降1年たりとも0%を下回った(デフレを経験した)ことは無く、2022年にはなんと年率11.62%もの物価上昇を経験しました。よって、日本のようにメーカー企業が値上げの数カ月前に発表を行い消費者の「ご理解をいただく」なんてことはなく、ありとあらゆるもの値段がいつの間にか上がっています。

そうすると当然人々の財布のひもは固くなります。英語で割り勘にすることを「Let's go Dutch」と言い、その由来は17世紀のイギリスで、オランダ商人が費用を分担する習慣があったことからイギリス人がこの表現を使い始めたという説や、19世紀のアメリカで、オランダ移民が多い地域で自分の分だけを支払うことが一般的だったことから広まった説など諸説ありますが、そのメンタリティーは現代にも引き継がれています。私の知る限りオランダ人は服・食にあまり頓着が無く、例えば服はいつも同じような恰好をしており、

日本のように流行を感じることはまずありません。食も家で食べるのはもっぱらパン・チーズ・ハムなどとても質素です。

しかし、そんなオランダにも唯一（私調べ）日本で買うよりも安いものがあります。それはビールです。スーパーで売られているビールは330ml×6缶で5ユーロ（約800円）ほど。日本では発泡酒・第3のビールを洪々飲んでいたビール党の私も、こちらでは何の気兼ねも無くハイネケンを飲めるのはとてもありがたいです。とは言え、外食でビールを飲むと1杯で5ユーロしまするので、注意が必要です。

と、ここまではあまり良いことが無さそうなオランダですが、夏は適度に暑く湿度が低いので、段々気候が良くなる5月頃からは「このために去年の秋から耐えてきた！」と言わんばかりに兎に角出られるだけ外に出ます。6月は日の入りが22時ぐらいになりますので、仕事が終わってから家族で近くの公園に行き、太陽の下ピクニックをしていると、東京では感じ得なかった



幸せを感じます。

そんな夏のオランダのおすすめの過ごし方ですが、もしチャンスがありましたら、ぜひアムステルダムでプライベートボート（電動で小型。免許必要なし）をレンタルし、スーパーで買ったハイネケンを飲みながら、運河クルーズをされてみてください。きっとこの国を好きになって、住んでみたいと錯覚されるに違いありません。



日本も長らく続いたデフレの時代が終わり、インフレの時代に入ったといわれています。来る日本のインフレが欧州のような「悪いインフレ」ではなく「良いインフレ」となりますこと、また皆様にとって今年も素晴らしい一年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



筆者（一番左）のガーナ出張時の写真



## 極寒のソウルより——韓国グルメを中心に

韓国三井物産(株) 食料・流通事業本部

吉武 広樹



アンニョンハセヨ！

飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

極寒のソウルより謹んで新年のお慶びを申し上げます。

10年程前、私が大阪で勤務していた際にも寄稿させていただいており、今回で2回目の登場となります。21年12月末、コロナ禍真っ盛りでのソウル着



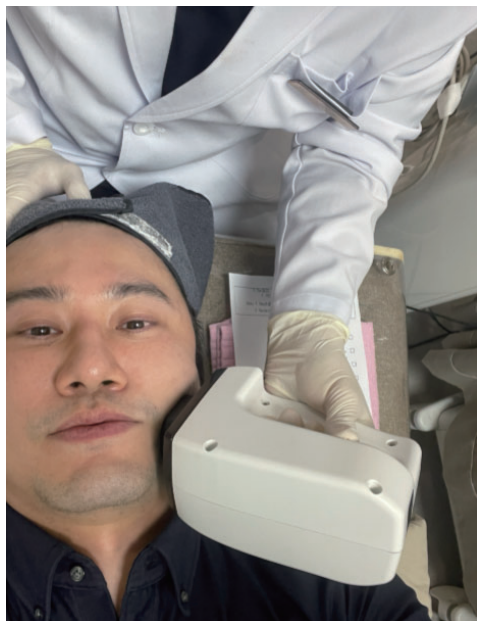
明洞の写真館で韓国王族の衣装を着て家族と記念撮影



賑わいが戻った明洞

任となりましたが、早くも3年が過ぎました。現在はコロナなど無かったかのように駐在員として忙しくも楽しく過ごしておりますので、当時の記憶も段々と薄れてきております。

当時のソウル赴任時は、金浦空港に降り立ちイミグレが完了すると、全身防護服の係員達に連れられ、緊張感が漂う中でPCR検査を受け、政府指定の隔離専用ホテルに連行されて行きました。当時は隔離専用ホテルに1週間の滞在が義務付けられていたのですが、この生活が酷いものでした。ホテルの部屋は日光が入らず、ベランダもない日陰の部屋で一日中を過ごしていました。当然のことながら外出はできず、食事は冷めた弁当が1日3食ドアの前に置かれる収容所のような生活でした。辛うじて1度だけデリバリーを依頼できるサービスを手配してもらえたので、缶ビールを山ほど買い込み、弁当のおかずを肴にし、薄味の韓国ビールで流し込んで耐えた1週間でした。



美容医療（HIFU）にチャレンジ

ホテルでの隔離から解放された後、本格的にソウルでの生活が始まりましたが、まず驚いたのは物価の高さです。円安の影響もありますが、毎年3%前後のインフレが続いており、完全に物価は日本と逆転しています。一昔前の韓国は、日本の物価と比較して2割程度安くリーズナブルに旅行できる国との認識でしたが、今は食料品を中心に2割程度高くなっている印象です。例えば、スーパーマーケットに行くと卵10個が400円、牛乳1Lが300円、コーラ350mlが200円、

りんご4個が1,000円で売られており、我が家のエンゲル係数が急上昇しています。日本と比較してリーズナブルなのは美容医療、スーパー銭湯（チムジルバン）、タクシー代程度となっています（涙）。

さて、ソウルは日本と同様にインバウンドが押し寄せており、コロナ禍中ではゴーストタウン化した人気観光地の明洞もコロナ前以上に昼夜問わず観光客でごった返しています。そのような中、駐在員として多くの出張者やお客様をアattendさせていただいておりますが、女性は韓国に複数回渡航した経験のある熱心なリピーター（3カ月に1度はソウルに来ている強者もいらっしゃる）も多い一方、男性は韓国に初めて来たという方も少なくなく、男女の韓国熱の差を感じています。少しでもその差を埋めるためにも、男性の方にも分かりやすく韓国の魅力を伝えたいと思います。今回の寄稿のトピックスとして韓流ドラマ、K-POP、ファッション、カフェ巡り、美容医療と色々アイデアを出しましたが、やはり韓国グルメが一番興味を持ってい

ただけるかと思い、そちらを中心に取り上げたいと思います。

韓国グルメとしてイメージされる料理としては、サムギョブサルや参鶏湯(サムゲタン)などの豚肉や鶏肉料理かと思います。私がソウルに駐在して街中を歩いてみても、韓国は本当に肉料理屋が多いなあと感じます。事実、韓国の飼料用コーンの輸入量は1,000万トン程度(日本は1,200万トン)あり、人口5,200万人(日本は1億2,400万人)ですので、日本との人口比で考えると倍近く飼料用コーンを消費しており、それだけ肉の需要が多いことがわかります。もちろん、魚を使った美味しい韓国料理もありますが、まず御馳走となれば肉といった感じです。

それでは、いくつか食べて頂きたい肉料理をご紹介しますが、前述したサムギョブサルや参鶏湯などのメジャーな料理は面白くないので、少し変わった料理を選んでみました。

## 1. カルメギサル

韓国の焼肉料理の一つで、豚の横隔膜周辺(ハラミ)の赤身肉を使用しています。カルメギサルは脂肪が少なく、弾力のある食感が特徴で、ヘルシーでありながらも満足感のある一品です。焼き上がった後に塩や特製のタレを付けて食べるのが一般的



真ん中の鉄板で肉を焼き、外周部分で卵焼きを作ります

です。また、サンチュやエゴマの葉に包んで、ニンニクやコチュジャンと一緒に食べると、さらに美味しさが引き立ちます。お店によっては、肉を焼く鉄板の周りに卵焼きを作る溝があり、その溝に溶き卵を流し込み、お好みでキムチ・ニンニク・ネギ等をトッピングして卵焼きを作ります。また、比較的安価で提供されることが多く、コストパフォーマンスが高いのも特徴です。日本の焼肉屋は、タン、ロース、カルビ、ハラミ、ミスジ、ホルモンなど多種多様な部位を楽しめますが、韓国の焼肉屋は、肉の部位は1～2種程度に絞っている特化型のお店が多い印象です。

## 2. ヤンコチ

羊肉を金属製の串に刺して炭火で焼く料理です。羊肉特有の臭みが少なく、スパイスやタレで味付けされているため、羊肉が苦手な方でも食べやすい料理かと思えます。炭火の横にある自動回転機械が特徴的で、これがヤンコチの楽しみを一層引き立てます。多くのヤンコチ店では、羊肉が刺さっている



炭火の横にある装置が動くことにより、歯車が付いている金属製の串を回転させます

串に歯車があり、機械にその歯車を差し込み、串を一定の速度で回転させるため肉が均一に焼けます。この串が自動で回転する様子は見ていて楽しく、食事のエンターテインメント性を高めていきます。また、ビールとの相性も抜群で、軽めのビールがよく合い、スパイスの一種であ

るクミンを付けたヤンコチを頬張りながら、韓国産ビール（特に緑色のビンのTERRAがオススメ）で流し込むのは至福の時です。

### 3. タッパル

鶏の足（もみじ）を使った韓国の伝統的な激辛料理の一つです。鶏の足をコチュジャンや粉唐辛子ベースの調味料で味付けしています。日本ではそのまま食べる習慣の無い部分なので、見た目は少しグロテスクに感じますが、その辛さとモツのようなゼラチン質の独特な食感が魅力です。鶏の足には美容と健康に良いコラーゲンがたっぷり含まれていることから、特に女性に人気の料理となっています。実際、お世辞にも綺麗とは言えない店構えのローカルなタッパル屋にも、多くの若い女性客が入っており、鶏の足をつつきながらビールや焼酎を飲んでいる光景を見ることが出来ます。韓国料理の中でも有数の激辛料理ですが、辛さを中和するために韓国風おにぎり（海苔とトビコをまぶして一口サイズに丸めたおにぎり）や茶わん蒸し（フワフワ食感の



写真は骨無しのタッパルとなりますが、骨付きもあります

蒸し卵）を合わせて食べるのが一般的です。

つたない文章ではありましたが、ここまでお読みいただき、心より感謝申し上げます。

それでは、新しい年が素晴らしいものになるように共に頑張っていきましょう！

ファイティン！

## 微笑みの国タイバンコク（ラチャブリ）より新年のご挨拶

豊田通商(株) PG AGRO社出向

藤原 玄



飼料輸出入協議会会員ならびに関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。タイはバンコクより謹んで新年のお慶びを申し上げます。

タイ料理必需品パクチーと辛い食べ物が大の苦手で、赴任当初は不安ばかりでしたが、バンコクに赴任して約2年が経過しました。バンコクといっても、弊職の事務所はバンコクから西に車で2時間程行ったラチャブリ県に所在し、事務所とバンコクを車で4時間かけて往復する毎日を送っております。バンコクには日本人が約7万人居住しており、飲食、買い物など日本の物が溢れていますので、何不自由のない生活が可能です。

他方、事務所のあるラチャブリ県には日本人が皆無に等しく、現地の言語はタイ語のみゆえ、呪文のようなタイ語と格闘しています。通勤は、まるで海外旅行、別世界を行き来しているような感覚というべきと感じています。一度だけ、家族全員でラチャブリ県に住めないかと思い、妻に「一緒にラチャブリに住ま」まで言いかけたところで、妻の顔色が変化したので、やめておきました。家族の心身健康が最優先と、人生経験豊富な諸先輩方にアドバイスをいただきましたので、身を粉にして実践している次第です。（ただ妻には何も言い返せないだけです笑。）

さて、新年のご挨拶の場をお借りし大変恐縮ですが、当地での生活について、少しだけご紹介させていただければと思います。

### 【タイってどんな国？】

旅行でお越しになったことがある方も多いと思いますが、正式名称「タイ王国」、通称「微笑みの国」タイは、東京からフライトで約6時間、東南アジア

アに所在し、西はミャンマー、北東にラオス、東にカンボジア、細長く南下している半島を下るとマレーシアとの国境に接している国です。気候は年中気温が高い熱帯性で、大きく分けて、暑季（3月～5月）、雨季（6月～10月）、乾季（11月～2月）の



3つの季節がありますが、一年を通して半袖で過ごせる環境です。人口は約7千万人強で、仏教を信仰する割合が約95%以上を占めています。

街中にはワットと呼ばれるお寺が多数あり、人々の習慣として、週末に必ず一度は、お参りに行っているようです。経済規模は、名目GDPで約5,140億USドル、日本の約8分の1で、世界第28位にランクしています。GDPの主な内訳は、製造業3割、観光サービス業3割等で、日本含め外資系企業の製造生産拠点、世界中からの様々な観光客の受入に注力していると言えます。

また農業大国で、バンコクから半径100kmを離れると辺り一面農地が広がり、コメ、キャッサバ、トウモロコシ、サトウキビが主要な農作物で、食料自給率は100%を超えています。人々は温厚な性格ですが、遅刻は日常茶飯事。ベトナム、インドネシア同様にバンコク市内は渋滞がひどくバイクの数が夥しく脇目を縫って走行しています。



当地にて生活して感じる特筆事項は、3点です。目覚しい中国自動車メーカーの台頭、膨らみすぎている家計債務、じりじり押し寄せる円安、物価高。1点目ですが、昨今バンコク市内で圧倒的に見かける頻度が高くなっている自動車が、中国EVメーカーBYD社の電気自動車です。ショッピングモールで展示会がよく開催されており、価格をチェックしますと、日本車より2割強安価です。安かろう悪かろうと思いきや、外見がスタイリッシュで、インテリアもシンプル、近未来を感じさせるデザインです。Grab Taxiで何度もBYDに乗車していますが、静かで、乗り心地も遜色ありません。充電インフラもバンコクの至る所に満遍なく設置してあり、日本では感じることの出来なかった自動車産業における中国の猛威を当地にて感じています。

2点目ですが、タイの家計債務の国内総生産GDPに対する割合は約90%です。(ちなみに日本は約65%)家計債務残高が膨らみすぎているので、タイ全体の自動車販売数に直接影響してしまっていて、2024年の販売台数は、前年比約25%減となる状況です。ご想像できるかと思いますが、販売減少理由は購入者の信用余力が底をつき自動車ローンを新規で組めないためです。最近、政府が発表した支援策に、条件付きですが個人に対する利払い猶予と債権放棄措置がありました。全体的な販売台数減少に加え、中国メーカーのシェア拡大影響は甚大ですので、日本車メーカーにとっては、大きな転換期だと思えます。

3点目、物価高、円安についてです。ご存じの方も多いかと思いますが、数年前は日本より安価で暮らしやすい国として評判だったタイは既に過去のイメージと思います。為替は継続的に円安に推移しスーパーに日本食を買いに行けば、日本で買う価格より3倍の出費です。衛生上、水は購入必須ですし、電気代も高騰しています。微笑みの国ですが、弊職のお財布には微笑んでくれそうにはありません。

## 【事務所のあるラチャブリ県での单身生活】

辛かった思い出話を1つ。弊社には海外駐在ルールで、赴任時3カ月間は

単身で生活基盤を整える期間が設けてあります。弊職も例に漏れず、その3カ月間、単身だったわけではありますが、天国のバンコクではなく、ラチャブリ県での生活を余儀なくされました。ラチャブリ県は、通称“ラブリー”と呼ばれており、バンコクから西へ車で片道2時間のところにあります。

単身3カ月間、弊職が住んでいたのは、ラチャブリダウンタウンの古風なアパート。4畳1K、シャワーあり、キッチン洗濯機無し。(ラチャブリでは最高級と言われました)初めて入室したとき、「えっ」となったのも束の間、そこから過酷な単身生活が待っていました。夕食はアパートの横にある小さなショッピングモールの某和食チェーンに行き(タイ人好みの味付けなのか全メニューとても甘い、さすがに3カ月毎晩は飽きます)、洗濯機がないので、週末気温40度超の中、1週間分の服を担いで、1km離れたコインランドリーまで、ぎらついている野犬(田舎の野犬は体が大きく犬歯が鋭い)と目を合わさないように歩き、コインランドリーで洗濯を終えて、再び野犬に怯えながら家に帰るとアパートに着いた時にはTシャツがびしょびしょになるほど汗だくで、今しがた洗濯に行ったのに、結局もう一枚水洗いする始末(とほほ)。一度だけ、バンコクで週末を過ごす機会があり、涙が出るほど嬉しかったのですが、週明けラチャブリのアパートに戻らないといけない現実を直視できず、嬉し涙以上に涙した記憶が鮮明に残っております。

書き切れませんので、続きは別の機会とさせていただきますが、何はともあれ、3カ月間、単身を終えて、日本に一時帰国した際、体重計に乗ると8kg減。弊職にとっては地名同様の“ラブリー”な環境ではなかったですが、今となっては良い思い出です。

## 【タイでの営業活動】

仕事で学んだことについてです。ラチャブリ県で、一般的に言われることとして、温暖な気候か国民性かは不明ですが、タイ人男性はせっせと汗水流して働くことを嫌い、女性が一生懸命働く文化なのだそうです。確かに周りを見回すとあながち間違っていないと感じております。弊職がスタッフと中

小企業様に営業に行くと、大抵タイ人オーナーの旦那様が対応してくれます。またほぼ確実にその面談の席には、オーナーの奥様が出てきます。会話の主はオーナーである旦那様ですが、価格交渉になった途端に、それまで一言も発しなかった奥様が入ってきて、身の引き締まるような鋭利なBIDが飛んできます。ごつつい高そうなジュエリーを首にまもっており、「綺麗な女性は交渉上手」と煽ててみるものの、そんな浅はかな手には乗らないと笑顔でさりとかわされます。働かない夫（交渉が緩い夫）には任せておけず、横で確り兜の緒を締めるためにあえて同席しているようです。帰る間にオーナーから「うちの嫁は怖いから、今度は俺に直接電話してきなさい」と言われ、なぜか励まされました。気合い入れて、足を運んで売っていかうと意気込んでいましたが、その国の気候や文化に応じて、あえて行かないほうが良い営業もあるのだと痛感した出来事でした。

## 【ロイクラトン（コムローイ）祭り】

おすすめしたいお祭りについてです。ロイクラトンは、毎年11月頃の満月の日に開催されるタイの伝統的なお祭りで、ロイは川、クラトンは灯籠を表すタイ語です。ロイクラトン祭りは、タイ各地で行われますが、特にタイ北部では、川に灯籠を流す本来の意味に加え、夜空に紙の灯籠（ランタン）を放つコムローイと呼ばれる祭りが行われます。

弊職家族はタイ第2都市チェンマイの祭りに参加しましたが、市内で行うと火事になる危険性があるため、チェンマイ市内から車で1時間ほど離れた山間での開催です。約5千人が参加する規模で、現地に着くと屋台料理がもてなされたり、コンサートが行われたりと大盛況でした。20時頃になると指定座席に着席し、時を待ちます。ふと辺りを見回すと世界各国のYoutuberらしき人々がカメラ片手に実況しています。

コムローイは熱気球と同じ原理で、紙の灯籠の真ん中に備え付けてある着火剤を燃やし、熱気を溜めて、夜空に浮かばせるものです。説明アナウンスでは、「3分間熱気を溜めてから飛ばしてください」とのこと。やってみると

意外と熱く片手では到底できません。そして適切に行わないと、紙なので当然引火します。嫌な予感がしたので再度辺りを見回すと Youtuberの方々は、片手にカメラ、片手で灯籠を持ちながら、撮影に忙しくしていますが、案の定、紙の灯籠に引火し、“炎上”していました。弊職も他人事ではなく、近隣を消火しないと別の荷物や飛ばしていない灯籠に燃え移るため、一緒に消火することに大忙しで



した。集中して写真を撮る時間がなく、消火と灯籠に奔走していましたが、花火と大量のコムローイの灯りが心身ともに癒してくれるお祭りだと思います。

翌日、良い写真があまり撮れていないことをカミングアウトしたところ、こちらも“大炎上”でしたので、もう一度リベンジしたいと思っています。幻想的でとても綺麗ですので、ぜひおすすめしたいお祭りですが、どうぞご安全に、効率よく、ベストな写真を撮影していただければと思います。

## 【最後に】

2024年は、穀物及びドル円相場の乱高下や米国大統領選挙など気が気でない一年だったかと思いますが、2025年は、皆様にとって、“微笑ましいラブリー”な年となりますことを、東南アジア、タイ（ラチャブリ）より祈念しております。タイにお越しの際はぜひお声がけいただけますと幸いです。改めまして本年もどうぞよろしくお願いたします。

## ミネアポリスあれこれ

Agrex Inc. トレーニー

三輪 侑史



皆様，新年明けましておめでとうございます。アメリカはミネアポリスより，謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2024年10月より研修生としてアメリカ（Agrex社）に派遣されております三輪と申します。まだまだ未熟者ではございますが，このたび新年のご挨拶の機会を頂戴し，僭越ながら当地での様子を少しご紹介させていただければと存じます。

### ミネアポリスという都

私が生活しておりますミネアポリス（Minneapolis）は，アメリカ合衆国中西部最北のミネソタ州に位置する都市で，スノーピー発祥の地である隣町のセントポール（St. Paul）と併せて「Twin Cities」という愛称で親しまれております。

当地周辺地域は全米有数の農業地帯として知られ，豊かな自然環境に恵まれています。更に，郊外には全米屈指の医療機関である Mayo Clinic があり，これを象徴とする医療・保険・製薬セクターが地域経済の主要な柱となっております。

もちろん言わずと知れた Cargill 社の本社が位置しておりますが，それだけではなく，Delta 航空（羽田からの直行便が 1 日 1 便運航）や米国小売大手の Target などの大企業が本社を構えており，産業の多様性と活気が特徴でございます。

ミネアポリス（Minneapolis）という名前は，ネイティブアメリカンの言語（ダコタ語）で「ミネ（Mni）」が「水」を意味し，「アポリス（apolis）」はギ

リシャ語で「都市」を指します。従いまして、ミネアポリスは「水の都市」と訳すことができ、水辺の美しい環境を象徴しております。その名の通り、ミネソタ州は10,000を超える湖を有し、英語の別名も「Land of 10,000 Lakes」であることから、アメリカの人々が当地の湖を好んでいることが伝わるのではないのでしょうか。

また、水と言いますと、穀物業に携わる方であれば一度はお世話になっている、ミシシッピ川、このアメリカ合衆国を貫く大河の源流がミネソタ州にあることをご存じでしょうか？

実はミシシッピ川の起源は、ミネソタ州北部に位置するイ

タスカ湖 (Itasca Lake) にございます。ミネアポリスから車で3時間ほど走った先にある、静かな森に囲まれた綺麗な湖ですが、こちらも名前の由来を調べてみますと、ラテン語の「veritas (真実)」と「caput (源頭)」に由来し、「真実の源」を意味しているようです。ミネソタ州を源として米国10州を流れるミシシッピ川、その川を利用し世界に穀物を届ける協議会会員の皆様は、まさに真の「実 (穀物)」を日本に届ける架け橋として、その重要で意義深い役割を担っておられるように感じられます。



ミシシッピ川の上に立つ筆者

## ミネアポリスの冬

そんな素敵な都市ミネアポリスですが、冬が始まると-20度まで気温が下がることもしばしば、「寒い」という言葉はもはや無力となります。寒さで



「痛い」という新たな感覚が、容赦なく襲います。

10月に赴任したばかりの私、赴任当初早々と迎えた初雪の日に張り切って分厚いダウンを着込んで出勤しておりました。しかし、現地スタッフは私を一瞥し、何とも言えない笑みを浮かべます。「本当の冬を知らないね」と。彼らの服装を見る限り、どうやら氷点下数度のこの寒さはベスト程度で何とか



冬のミネアポリスと初雪に完全防備で臨む筆者

なるようです。

冬は始まったばかりでございますので、朝一番の雪かきや車に張った氷割りという冬の儀式はまだまだ続きそうです。

ミネアポリス同様、日本におかれましても、年末年始は寒い中でお忙しい日々が続くかと存じます。皆様もご体調には十分にお気をつけになり、ご自愛ください。

## 米国三大スポーツ

ミネアポリスの生活では、アメリカ文化を象徴する三大スポーツ（アメリカンフットボール、野球、バスケットボール）が、人々の生活に彩りを与えていることを実感いたします。

現在はオフシーズンのTwins（野球）を除きますと、今シーズン2敗しかしておらず（12月中旬時点）好調なVikings（アメリカンフットボール）、昨シーズンプレイオフで熱戦を演じたTimberwolves（バスケットボール）への応援は熱烈で、ホームゲームの際には多くの人が応援に駆け付けます。特に、Vikingsの試合の週には、どこもかしこもその話題で持ち切りといった様子です。

前述のような厳しい寒さの中でどうやって観戦するのか、疑問に思う方もいるかもしれませんが、当地では寒冷地特有の寒さ対策がございます。

例えば、Vikingsのホームスタジアムは全天候型の屋内スタジアムで、外の寒さを気にすることなく快適に観戦できますし、TimberwolvesやTwinsのスタジアムは、市内の多くの場所を結ぶ「Skyway」という屋内通路で繋がっており、家を出て車に乗り込んだら、ほとんど外に出ることなくスタジアムに到着できるといった具合です。（そうは言っても、氷点下の中、家から半袖で観戦に来る現地の方を理解できるものではございませんが、,,）

本稿を執筆しております12月には、アメフトのプレイオフ結果がわかっていないものの、Agrex社本社がごございますKansas Cityを本拠とする昨年覇者Chiefsの勢いに負けず、Vikingsのスーパーボウル（全米決勝）勝利を祈





りたいと思います。

### 【コラム：Los Angeles Lakersは Minneapolis Lakers ??】

日本バスケ界の至宝である八村塁選手が所属する Los Angeles Lakers は、元々 Minneapolis Lakers として誕生していたことをご存じでしょうか？

チーム名の「レイカーズ (Lakers)」は、前述いたしましたミネソタ州の「Land of 10,000 Lakes」という別名に由来しており、1950年代にはミネアポリスを拠点に、NBAの初期黄金時代を築き上げました。しかし、1960年にロサンゼルスに移転し、湖



Timberwolves (上) と Vikings (下)



Minneapolis時代の復刻ユニフォーム（左）と現在（右）

の豊かな地から、どちらかといえば渴いた地中海性気候のカリフォルニアへと活動の舞台を移しております。それでもチーム名はそのまま保持し、今では「湖の人たち」というよりも、「バスケットボール界の強者」として名を馳せているように感じます。

### アメリカ中西部の暮らし

ミネアポリスが位置しますアメリカ中西部の暮らしは、どこかしら穏やかで地に足がついた生き方が根付いており、この地域の人々は、「地元」という文化を何より大切にしているように感じます。海外旅行に行くことはあまり一般的ではなく、代わりに週末の予定は親戚の家でのバーベキューや、地域の高校フットボールの試合観戦に費やされます。実際、「空港に行くくらいなら庭でホットドッグを焼いてるほうがマシだ」という人も珍しくありません。

サンクスギビングになりますと、何代も同じ場所に住む大家族が一堂に会し、感謝祭のターキーがテーブルの主役になります。（サンクスギビング用のターキー丸焼きによる火事が後を絶えず、日中のニュース番組で幾度となく注意喚起の映像が流れるほどです,,,)

そして、中西部らしさを一言で言うならば「謙虚さ」。その土地の人々は、実直でユーモアに満ちています。必要以上の華やかさを求めず、それでいて、困っている人がいれば手を差し伸べる温かさがあり、懐かしさを感じるほどです。

## 最後に

当地ご紹介に終始してしまいましたが、近年は地政学リスクの高まりもあり、食糧安定供給の重要性が改めて見直される中で、北米産地拠点においてもその真価が問われていると感じます。弊社といたしましては、本年もこれまでと変わらず食糧の安全保障に貢献するべく、日々努力を惜しまず取り組んでまいります。皆様にとって、希望に満ちた実り多い年となりますようお祈り申し上げます。

末筆ではございますが、飼料輸出入協議会及び会員各社の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 豪州便り

伊藤忠商事(株) シドニー駐在

片岡 拓巳



飼料輸出入協議会会員並びに関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。オーストラリアより謹んで新春のお慶びを申し上げます。ITOCHU Australia Ltd. (シドニー) に駐在しております片岡と申します。旧年中は大変お世話になりました、誠にありがとうございました。本年もお付き合いいただけますよう、よろしく願い申し上げます。

## <はじめに>

オーストラリアの国土面積は日本の約20倍、世界で6番目の広さです。主に平坦な地形が多く、沿岸部に主要都市が連なり、中央部には広大な砂漠地帯が広がります。ニューサウスウェールズ州 (NSW)・ビクトリア州 (VIC)・クイーンズランド州 (QLD)・南オーストラリア州 (SA)・西オーストラリア州 (WA)・タスマニア州 (TAS)・北部準州及び首都キャンベラを含む特別

地域より、構成されております。人口は約2,700万人で日本の1／5ですが、他国からの流入が多く、人口増加率は1.5%、2070年には約4,000万人まで増加すると予測されております。オーストラリアは多国籍な文化が共存し、各土地の観光資源も豊富であり、非常に魅力的な国であると感じます。

## <観光>

オーストラリアは、日本人にとっても馴染みのある土地ですが、その広大な自然と独特な文化で世界的に有名な観光地が数多くあります。

当方駐在地のシドニーは市内オペラハウスが有名ですが、先日は日本人ピアニスト辻井伸行氏のリサイタルコンサートを聴いてまいりました。満員御礼で非常に素晴らしいコンサートでした。

郊外に車で1.5時間の場所にシドニーで有名なハンターバレーのワイナリー地域があり、こちらも人気のスポットです。

シドニー北部沿岸にはマンリービーチがあり、同地域に居住している方々は毎朝フェリーでシドニー市内に通勤しております。





豪州国内の土地で当方が気に入ったのは、エアーズロックです。砂漠地帯のど真ん中にそびえ立つ岩はサンセット／サンライズの時間帯ともに大変綺麗で、日本人にも有名な観光スポットですので、是非お立ち寄りされることをお勧めいたします。

### <食文化>

オーストラリア料理の定番はステーキです。豚肉・鶏肉・ラム肉・カンガルー肉等がありますが、やはり牛肉が最も人気です。品種はアンガス牛が高品質とされており、部位はトマホーク（リブアイステーキの骨を長く残した形状）が特徴的です。また、牧草飼育のグラスフェッド、穀物飼育のグレインフェッドがありますが、当方含む、日本人好みはやはり臭みの無いグレイ



ンフェッドのようです。

また、豊富な魚介類を使った海鮮料理も有名です。特にサーモン、エビ、牡蠣、ロブスター、貝類が有名です。人気料理は、日本人にも馴染みのあるフィッシュ&チップス、そしてシーフードブラッターです。レストランの前菜で牡蠣を注文する事が多く、日本より小ぶりです。苦味が少なく、当地で人気の食材です。オーストラリアの牡蠣はお腹に当たらないと言われておりますが、本当なのでしょうか。(確かに当方も赴任後は未だ当たっておりません)

### <最後に>

以上、簡単ではございますが、オーストラリアの紹介をさせていただきました。

オーストラリアは日本と時差が少なく、直行便も増えておりますので、機会があれば是非オーストラリアにお越しください。最後になりますが、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 国内の牛肉骨粉の鶏・豚用飼料への利用再開

農林水産省 消費・安全局  
畜水産安全管理課 課長補佐

森垣 孝司



## 1. はじめに

2001年の牛海綿状脳症（BSE）の発生を受け、同病の発生及びまん延を防止するため、我が国は、BSEの感染源となりうる肉骨粉等の飼料利用を禁止しました。

その後、製造・使用段階における分別管理を徹底する等のリスク管理措置を講じることを前提としつつ、最新の科学的知見に基づくリスク評価の結果を踏まえて、順次、規制の範囲を見直してまいりました。

昨年（2024年）10月、農業資材審議会や食品安全委員会の評価結果等を踏まえて、国内で製造される牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用を23年ぶりに再開しましたので、このことについてご説明させていただきます。

## 2. 牛海綿状脳症（BSE）とは

BSEはウイルス、細菌などの病原微生物ではなく、たん白質の一種である異常プリオンたん白質が脳等に蓄積することで引き起こされる牛の病気です。治療法はなく、長い潜伏期間の後、神経症状を呈して死に至ります。

BSEには、感染牛に由来する飼料の摂取が原因とされる定型BSEと加齢に伴い自然発生することが示唆されている非定型BSEと呼ばれるものがあります。人のプリオン病である変異型プロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）は、この定型BSEの異常プリオンたん白質の摂取と関連していると考えられています。

BSEは1986年に英国で初めて報告され、1992年に発生のピーク（37,316頭）を迎えましたが、世界各国において、BSEの感染源となりうる肉骨粉等を反すう動物へ給与することを禁止する対策、いわゆる飼料規制等の対策が講じられた結果、近年は年間数頭～10頭程度まで激減し、そのほとんどは、非定型BSEが占めている状況です。

我が国においても、2001年9月に1例目のBSE感染牛が見つかったことを受け、2001年10月、飼料安全法に基づき、BSEの感染源となりうる肉骨粉等を全ての飼料に利用することを禁止した他、異常プリオンたん白質が集中する部位（特定危険部位、SRM）の除去・焼却を義務化する等、BSE対策の強化を行いました。

その結果、2002年1月生まれの牛を最後に、国内で生まれた牛での発生は確認されておらず（これまでに計36頭の発生が確認）、2013年には、国際獣疫事務局（WOAH）による「無視できるBSEリスク」（国際的なBSEの安全性格付けの最上位）の認定を受け、現在に至るまで、10年以上維持し続けています。

### 3. 我が国における飼料規制

資料1は、我が国における飼料規制の概要を示したものです。

2001年10月時点の飼料規制は、牛だけでなく、豚、鶏等の動物に由来するたん白質（乳及び乳製品、卵及び卵製品等を除く。）を全ての飼料に利用することを禁止する非常に厳しいものでした。

その後も、魚粉については、ほ乳動物由来たん白質の混入が見られたこと等を踏まえ、牛等への利用を制限（2002年2月に一時停止、2004年1月に法的に利用禁止）するとともに、2003年7月には、A飼料（牛等を対象とする飼料）と動物由来たん白質を含む飼料の製造工程の分離を義務化することで、飼料規制の有効性をより確実なものとししました。

その一方で、飼料規制が事業者にとって過度な負担とならないよう、飼料への利用が禁止されているSRM等の動物由来たん白質を取り扱う工程と確実



に分離された工程で製造されることを農林水産大臣が確認（大臣確認）すること等を前提として、最新の科学的知見に基づくリスク評価の結果を踏まえて、順次、規制の範囲を見直してまいりました。

### 資料1 牛海綿状脳症（BSE）に係る飼料規制

- BSEの感染源となりうる原料(肉骨粉等)を牛用飼料として利用することを禁止
- 牛用飼料とその他飼料の交差汚染を防止するため飼料の製造、出荷、運送、保管、給与の各段階において分離

#### ➤ 主な原料の飼料利用の規制状況（2024年10月時点）

由来動物等		用途	牛用飼料	豚用飼料・鶏用飼料	養魚用飼料
牛 (SRM除く)	血粉等、肉骨粉等		×	○ 2024.10再開	○ 2015.4再開
			×	○	○
めん羊・山羊 (SRM除く)	血粉等、肉骨粉等		×	○ 2024.10再開	○ 2018.4再開
			×	×	×
鹿	血粉等、肉骨粉等	×	×	×	
豚	血粉等	×	○ 2001.11再開	○ 2001.11再開	
	肉骨粉等	×	○ 2005.4再開	○ 2008.5再開	
馬	血粉等	×	○ 2001.11再開	○ 2001.11再開	
	肉骨粉等	×	○ 2020.5再開	○ 2018.4再開	
鶏	血粉等	×	○ 2001.11再開	○ 2001.11再開	
	チキンミール、フェザーミール	×	○	○	
	加水分解たん白質 蒸製骨粉	×	○ 2005.4再開	○ 2008.5再開	
魚	魚粉	×	○	○	
動物由来たん白質を含む食品残さ			×	○ 2014.5再開	○ 2014.5再開

また、2005年10月には、飼料規制の遵守に係る重点検査・指導事項を定め、農林水産省、独立行政法人肥飼料検査所（2007年4月に独立行政法人農林水産消費安全技術センター（FAMIC）に統合）及び都道府県が連携して、飼料規制の検査・指導を行う体制が整いました。

これまで、肉骨粉等がA飼料へ混入した事例や牛等へ誤用・流用された事例は確認されておらず、確認された違反はいずれも、豚肉骨粉から牛由来たん白質の混入が確認されたものです（資料2）。

資料2 飼料規制の遵守状況（2013～2022年度の実績）

	FAMIC 〔(独)農林水産消費安全技術センター〕		都道府県	
	立入検査		立入検査	
	レンダリング事業場 (約60か所)	飼料製造事業場 (約3,400か所)	販売事業場 (約15,000か所)	牛農家 (約56,000戸)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ SRM等の処理工程から完全に分離された工程で製造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 牛用飼料の製造工程から完全に分離された工程で製造</li> <li>✓ 牛への給与を禁止する旨を表示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専用の容器又は専用の場所で保管</li> <li>✓ 専用の容器で輸送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 専用の容器又は専用の場所で保管</li> <li>✓ 牛への給与を禁止</li> </ul>
立入検査数 (のべ)	559か所	5,569か所	8,410か所	46,870戸
違反数 (肉骨粉に関するもの)	0件※	0件	0件	0件

※ 上記期間以外にこれまでに確認された違反は2件で、いずれもレンダリング事業場において豚肉骨粉から牛由来たん白質の混入が確認されたもの(2010年4月、2023年9月)

#### 4. 牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開の経緯

2. で述べたとおり、我が国のBSE発生リスクは、牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開に向けた手続きを開始した2023年10月の時点において、大きく低下している状況にありました。

BSE発生以前、と畜場等で発生する牛の残さは、豚や鶏の残さ等とともにレンダリング処理され、有用なたん白質源及びミネラル源として、飼料等に利用されていましたが、このとき、国内で発生する牛肉骨粉のほとんどは、有効利用されずに焼却されており、その量は、SRMや死亡牛に由来する分を除くと、年間約6万トンと推定されています。

また、BSEの国際ルール（WOAHコード）では、反すう動物由来たん白質が反すう動物へ給与されないことを求めているものの、豚や鶏等の非反すう動物への給与は規制していません。

実際、米国、カナダ、ブラジル等の多くの国々は、牛肉骨粉等の鶏・豚用飼料等への利用を認めています。過去に多くのBSE発生が確認されたEUは、

まだ牛肉骨粉等の飼料利用を認めていませんが、2021年には、豚に由来するたん白質の鶏用飼料への利用や鶏に由来するたん白質の豚用飼料への利用を認める等、飼料規制を緩和する方向に動いています（資料3）。

### 資料3 国際ルールで規定されている飼料規制

国際ルール(WOAHコード)では、反すう動物由来たん白質が反すう動物へ給与されていないことを求めているものの、非反すう動物への利用は規制していない

略号 ○: 利用可、△: 同種動物への利用は不可、×: 利用不可

		WOAH			日本			米国・カナダ※2			EU		
		牛用飼料	鶏・豚用飼料	養魚用飼料	牛用飼料	鶏・豚用飼料	養魚用飼料	牛用飼料	鶏・豚用飼料	養魚用飼料	牛用飼料	鶏・豚用飼料	養魚用飼料
肉骨粉の原料	牛、めん山羊※1	×	○	○	×	○ 2024.10 に再開	○	×	○	○	×	×	×
	豚	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	△	○
	鶏	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	△	○

(※1) 特定危険部位(SRM)等は利用不可。

(※2) 米国、カナダの他、中国、タイ、オーストラリア、ニュージーランド、メキシコ、ブラジル、チリ等も牛肉骨粉等の鶏・豚用飼料への利用を認めている。

こうしたことを受けて、農林水産省は、牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開について、最新の科学的知見に基づく見直しを行うこととしました。

資料4は、牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用が再開されるまでの経緯を示したものです。今回の利用再開に当たっては、牛、めん山羊の死亡と体及びSRMを含まない原料から製造される牛肉骨粉等であること、牛肉骨粉等のA飼料への混入や牛等への誤用・流用を防止するための新たな管理措置及び検査の強化を行うことを前提として、農業資材審議会や食品安全委員会等の専門家による評価をお願いしました。

2023年10月、農林水産省は、食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会プリオン病小委員会において、本見直しに対する技術的助言を求めたところ、製造工程の分離等の管理措置の実施により、牛肉骨粉等の牛等への給与を防止した上で再開した場合、現行の飼料規制の効果に影響を及ぼすとは考えにく

資料4 牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開までの経緯

2023(令和5)年10月	食料・農業・農村政策審議会 家畜衛生部会 プリオン病小委員会
	農業資材審議会 飼料分科会(答申)
11月	食品安全委員会(審議開始)
12月 2024(令和6)年2月	食品安全委員会 プリオン専門調査会
3月	食品安全委員会(プリオンにおける審議結果の報告)
3月～4月	評価書案のパブリックコメント
5月	食品安全委員会(評価結果の通知)
5月～6月	改正省令等のパブリックコメント (併行して消費者庁、厚労省からも回答)
10月3日	改正省令の公布・施行、関係通知の発出
12月26日	牛肉骨粉等を扱う工場への製造の認可

いとの回答を受けました。

また、同年同月、農林水産省は、農業資材審議会への諮問を行い、同審議会飼料分科会における審議の結果、本見直しを行うことは適当との答申を受けました。

さらに、同年11月、農林水産省は、食品安全委員会へ食品健康影響評価を依頼し、食品安全委員会において、原材料である牛肉骨粉等の安全性、牛肉骨粉等を豚、鶏等へ給与することによる人へのBSE感染リスクの2点について検討が行われました。その結果、2024年5月、牛等に対するリスク管理措置がこれまでと同様に遵守される限りにおいては、牛肉骨粉等を、鶏・豚等を対象とする飼料の原料として利用したとしても、人の健康影響は無視できるとの評価結果を受けました。

こうした専門家による評価に加え、2024年5月から6月にかけてパブリックコメントを行い、同年10月3日、「飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令の一部を改正する省令」(令和6年農林水産省令第52号)の公布及び施行をもって、牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用が正式に再開されました。

その後、農林水産省及びFAMICは、牛肉骨粉等を取り扱うレンダリング工場及び飼料工場の安全確認を行い、12月26日に製造の認可を一斉に出したところです。

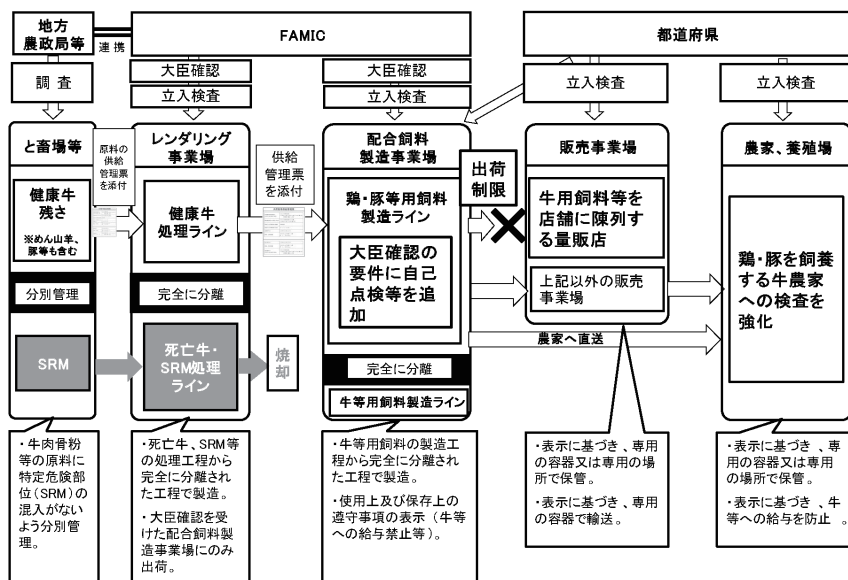
## 5. 利用再開後のリスク管理措置

牛肉骨粉等については、すでに養魚用飼料への利用が再開（牛由来は2015年、めん山羊由来は2018年に再開）されており、牛肉骨粉等のA飼料への混入や牛等への誤用・流用等を防止するための対策が取られていました。

今回の牛肉骨粉等の鶏・豚等用飼料への利用再開に当たっては、現行の飼料規制の効果に影響を及ぼさないよう、これまで実施されたリスク管理措置に加えて、新たな管理措置を講じるとともに、農場における検査の強化を行いました（資料5）。

牛肉骨粉等の製造段階（レンダリング事業場）においては、引き続き、原料の分別収集、牛、めん山羊の死亡と体及びSRMの処理工程から完全に分離された工程で製造する等の対策を講じるものとし、牛肉骨粉等の製造開始前に、大臣確認（実際には、農林水産大臣の指示を受けて、FAMICが確認し

資料5 牛肉骨粉等の飼料利用に係るリスク管理措置



ます。)を受けなくてはならないこととしています。

大臣確認を受けた後も、FAMICは、当該レンダリング事業場へ定期的に立入検査を実施し、必要な対策が取られていることの確認を行うこととしています。

牛肉骨粉等を含む飼料の製造段階（配合飼料製造事業場）においては、引き続き、A飼料の製造工程から完全に分離された工程で製造すること、牛等への使用禁止等の表示を行う等の対策を講じる他、新たに、製造に従事する従業員への教育、製造関連業務についての定期的な自己点検、異常が発生した場合、農林水産省やFAMIC等に対して速やかに報告を行い、原因究明、改善措置を行う等の異常時対応、牛用飼料を陳列する量販店への出荷制限が求められています。また、飼料の製造開始前に、大臣確認を受けなくてはならないこととしています。

大臣確認を受けた後も、FAMICは、当該飼料工場へ定期的に立入検査を実施し、必要な対策が取られていることの確認を行います。

牛肉骨粉等を含む飼料の使用段階（畜産農家等）においては、都道府県が引き続き、牛等とともに豚、鶏等を使用する農家に重点を置いて、A飼料が専用の場所又は専用の容器で保管されていること、牛等への誤用・流用がないことの確認・指導を行います。

また、利用再開後から1年間は、こうした混合飼養農家の全てを検査・指導するとともに、それ以降も、牛肉骨粉等を含む飼料を使用する混合飼養農家において、原則として年1回の検査・指導を行うこととしています。

## 6. 最後に

BSEの発生を受け、20年以上に渡り、牛肉骨粉等の飼料への利用が禁止されていたことから、現在の生産者、消費者の皆さまにとって、牛肉骨粉はすっかりなじみの薄いものとなりました。

このため、今回の見直しに当たっては、専門家による科学的な評価を受けるだけでなく、消費者、畜産物の生産者及び流通業者、飼料関係事業者等の

様々な立場の方々へ説明・意見交換を行いながら進めてまいりました。

農林水産省においては、引き続き、FAMIC、都道府県等と連携して、飼料規制の遵守状況を確認するとともに、関係者の皆さまに対して、牛肉骨粉等の安全性に関する説明に努めてまいりたいと思います（資料6）。

### 資料6 生産者、消費者向けチラシ

生産者、消費者のみなさまへ

2024年10月3日  
製造許可の手続き開始

## 牛由来原料 （ビーフミール）の 鶏や豚用飼料への利用を 再開します

### 何がかわる？

今まで	これから
ビーフミールは主に焼却していました	ビーフミールを鶏や豚用の飼料に利用できます (牛用飼料には利用できません) ※牛由来原料を利用した飼料にはミートボーンミールと表示されます

### 国内での専門家による安全評価

2023年10月 農業資材審議会からの答申	2024年5月 食品安全委員会からの評価
鶏や豚用の飼料にビーフミールを利用することは適切と答申を受けました	牛に対するリスク管理がこれまでと同様に遵守されている限り、ビーフミールを鶏や豚用の飼料に利用しても、人への健康影響は無視できると評価されました

### 海外での利用状況

国際ルール※では、ビーフミールを鶏や豚用の飼料に使用することを禁止していません  
我が国が畜産物の輸入を認めているアメリカ、カナダ、ブラジル等多くの国では、ビーフミールの鶏や豚用飼料への使用を認めています  
※国際獣疫事務局（WOAH）によるルール

### ビーフミールの安全管理の方法

**ビーフミールを作る工場** 原料は、と畜検査を受けた安全な牛の部位を使用します  
※BSEの原因とされる貴重なプリオンの蓄積しやうい部位はと畜場で除去・焼却されるため、飼料として利用されません

**鶏や豚用の飼料を作る工場** ビーフミールを使う鶏や豚用飼料の製造工程は、牛用の工程と完全に分かれています  
⇒ビーフミールが牛用飼料に混ざることはありません

**畜産農家** ビーフミールを使った鶏や豚用飼料は、容器の専用化や注意事項の表示等を行います  
⇒誤って牛に給与されることを防止します

今後も、工場や農家への検査を行いBSE対策を続けます

農林水産省

- ① 米国産とうもろこし過去最高単収！シカゴとうもろこし、2020年以来の3ドル台を記録
- ② 出てこぬブラジル産コーン ～なぜコーン（こん）なにも出てコーン（来ん）のか～
- ③ 続く円安、一時160円突破へ ～エーンと渋沢栄一も泣いている？～
- ④ 牛肉骨粉、鶏豚飼料に23年ぶり使用解禁
- ⑤ 2024年問題、物流への影響本格化。国内各所でロジスティクスの見直し始まる
- ⑥ 鳥インフルエンザ流行の兆し？？高まる警戒感
- ⑦ 気候変動、年々大規模に ～Panama運河の混乱／ミシシッピ川の低水位／Gulfへの大型ハリケーンの到来～
- ⑧ 中国産大豆ミール、久しぶりの年間100万MT輸入（本邦向け）見通し
- ⑨ 魚粉価格大暴落 ～水産飼料需要減退でギョギョギョと供給過多に～
- ⑩ BASFの工場が爆発。ビタミン価格が急上昇

---

<番外編>

- ① 大谷翔平50／50達成、ドジャース移籍一年目でワールドシリーズ制覇
- ② ドナルド・トランプ氏当選 ～穀物相場は、どうなるど～
- ③ 衆院選 与党過半数割れ



## 第56回 (2024年) FEED TRADE アンケート当選者発表

### ホールインワン賞は近似値で該当者なし

#### 《設問と正解》

第1問 2024年7月1日(月)の米国産トウモロコシのシカゴ定期  
12月限の引け値はいくらでしょうか。

正解 420.50 セント

第2問 2024年10月1日(火)の米国産トウモロコシシカゴ定期  
12月限の引け値はいくらでしょうか。

正解 429.00セント

第3問 2024年10月度のUSDA需給報告における2024/25クropp  
米国産トウモロコシの生産高はいくらでしょうか。

正解 15,203百万ブッシェル

第4問 2024年12月2日(月)現在の対米ドル換算率レート  
(三菱UFJ銀行TTS) はいくらでしょうか。

正解 151.22円

各賞は、以下の皆様に決まりました（敬称略）。

第1問 ホールインワン賞 なし

ニアピン賞	田口 鑑	兼松(株)	420.00
	今村 政宏	三菱商事(株)	420.00

第2問 ホールインワン賞 なし

ニアピン賞	森上 功一	伊藤忠商事(株)	430.00
	小林 弘和	伊藤忠商事(株)	430.00
	黒木 俊作	三井物産(株)	430.00
	清水 大哉	三菱商事(株)	430.00

第3問 ホールインワン賞 なし

ニアピン賞	木寺 佑介	伊藤忠商事(株)	15,200
	岩瀬 裕紀	兼松(株)	15,200

第4問	ホールインワン賞	なし			
	ニアピン賞	辰見 吉昭	兼松(株)		150.00
		高桑 慶太	三井物産(株)		150.00

## 第57回 (2025年) Feed Trade アンケートのご案内

恒例のFeed Tradeアンケートを下記により募集いたします。奮ってご応募ください。

飼料輸出入協議会  
『Feed Trade』編集委員会

### 【設問】

- 第1問 2025年7月1日(火)の米国産トウモロコシのシカゴ定期  
12月限の引け値はいくらでしょうか。  
(セント/ブッシェル)
- 第2問 2025年10月1日(水)の米国産トウモロコシのシカゴ定期  
12月限の引け値はいくらでしょうか。  
(セント/ブッシェル)
- 第3問 2025年10月度のUSDA需給報告における2025/26クロープ  
米国産トウモロコシの生産高はいくらでしょうか。  
(百万ブッシェル)
- 第4問 2025年12月1日(月)現在の対米ドル換算率レート  
(三菱UFJ銀行TTS)はいくらでしょうか。  
(円/US\$)

それぞれの質問につきびつたりの数値だった方にホールインワン賞、最近似値を出された方にニアピン賞、次点の方に残念賞を差し上げます(上位者が2名以上の場合、残念賞は割愛いたします)。

なお、ご回答は2月14日(金)までに下記あて、FAXまたはE-mailにてお願いいたします。

飼料輸出入協議会

電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

E-mail: jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp (宮本宛)

## 「紫峰もち豚」のご紹介

兼松アグリテック(株)飼料畜産部

栗山 夢歌



今回は、兼松アグリテック株式会社のお客様である「細谷ファーマーズ株式会社」が生産する「紫峰もち豚」の紹介をさせていただきます。

### 1. はじめに

兼松アグリテック株式会社は、畜産用配合飼料、農産物用有機配合肥料の製造・販売を行うメーカーです。

飼料製造販売においては、鶏・豚・牛用飼料の設計開発を行っており、お客様のニーズに合わせた配合飼料を提供しております。農場の成績に合わせた柔軟に対応することで生産性の向上に寄与し、またブランド化による高付加価値の畜産物の生産を実現しております。当社は設立から今期で70年を迎えており、当社の特色である兼松グループの総合力、技術力を生かしながら、お客様の課題を解決することで共に成長してまいりました。

その中でも当社の古くからのお客様である細谷ファーマーズ株式会社は、茨城県石岡市で養豚業を営んでいます。子豚の生産から肉豚の出荷まで一貫して行い、ブランド豚「紫峰もち豚」を生産しております。今回はそんな「紫峰もち豚」の美味しさ、こだわりについて紹介いたします。

### 2. 紫峰もち豚について

朝夕に山肌を美しく染める名峰・筑波山（紫峰）。この美しく雄大な自然に包まれた八郷地区で「紫峰もち豚」は育てられています。清らかな湧き水と新鮮な空気は、美味しい豚を育てるために欠かせないものです。雄大な自然



に囲まれたストレスのない衛生的な環境，手間ひまを惜しまない徹底した管理の他，こだわりの配合飼料を給与することでブランド豚の最高峰「紫峰もち豚」は生産されております。

「紫峰もち豚」の最大の特徴は、「サシ」です。筋繊維の赤身の中に，きめ細やかなサシ（脂身）が入っており，お肉の見栄も美しく，食べても美味しい豚肉となっています。

「紫峰もち豚」は格付けにて全豚肉中約1%しか認められていない「極上」ランクを数多く獲得しています。また，東京食肉市場にて年に1度開催され



る全国豚枝肉共励会で優秀賞を受賞するなど、その品質は高い評価を得ています。

### 3. 配合飼料へのこだわり

紫峰もち豚の最大の特徴は、こだわりの配合飼料にあります。生産者、飼料コンサルタント、兼松アグリテックの3社で協議を重ね作り上げた独自の配合飼料を給与しています。ここでは、こだわりの飼料の特徴を紹介させていただきます。

#### ① パン粉・菓子パン粉

高品質の豚肉と飼料成分に関する研究において、アミノ酸の一種である「リジン」の割合を減らした飼料を給与することで筋肉に脂肪が多く蓄積し、いわゆる「サシ」が入ることが分かっています。低リジン原料であるパン粉・菓子パン粉を豊富に配合することで、キメ細やかなサシが入り、この赤身と脂肪の絶妙なバランスが紫峰もち豚の最大の特徴となっています。

#### ② さつまいも・麦

とうもろこしの使用を出来るだけ控え、デンプン質の多いさつまいも・麦を配合しています。良質なデンプンを長期間給与するため、デンプン質により、くちどけの良い豚本来の脂身が合成されます。それにより、脂身に風味と甘味をもたらす「オレイン酸」を豊富に含む、体脂肪バランスの良い肉質

に仕上がります。

#### ③ 植物性原料

エネルギー価が高い動物性油脂を使用していないため、上記の穀類・パン粉類といったお肉に旨味をもたらす原料を多く配合することができます。また、動物性飼料を使用せず、植物性原料のみを使用することで、豚特有の臭みを抑えています。



給与している配合飼料

## 4. 取り扱い店のご紹介

「紫峰もち豚」は様々な飲食店でブランド豚肉として扱われております。中でも「とんかつ紫峰」は、石岡市に店を構える「紫峰もち豚」のみを扱うとんかつ専門店です。ロース・リブロースといった部位の他に、とんかつ店では珍しい「ももかつ」や、紫峰もち豚入りの豚汁なども召し上がることができます。

紫峰もち豚とんかつのおすすめの召し上がり方は、「塩」です。塩で召し上がることで脂の甘味が引き立ち、紫峰もち豚の特徴を最大限に味わうことができます。とんかつ紫峰では、他にもソース、地元石岡の味噌を使った味噌ダレ、常陸牛が入ったカレーなど、「味変」をしながら楽しむこともできます。実際に召し上がられたお客様からは、「赤身の中にサシが入っていて柔らかい」、「脂はサラリと甘くて美味しい」といった声が上がっています。

その他にも、「紫峰もち豚」は茨城県内の飲食店を中心にブランド豚として取り扱われております。また東京都内の飲食店・精肉店や関西方面のとんかつ専門店でも扱われているため、皆様もどこかで目にしたことがあるかもし



### 【とんかつ紫峰】

住所 茨城県石岡市東石岡4-6-37

営業時間 11:00~14:00

HP <https://tonkatsushiho.hp.peraichi.com/>

れません。お目にかかれた際には是非一度口にしていただき、紫峰もち豚のこだわりの美味しさを味わってみてください。

## 5. 最後に

細谷ファーマーズ株式会社では、社長をはじめとした従業員の方々の美味しさへこだわる思い、また並々ならぬ努力の結果、安心安全でかつ美味しい豚肉を生産しております。

そんな生産者の方々が作り上げる日本の農畜産物は、世界に誇れるものと当社は確信しております。

現在畜産業界を取り巻く状況は厳しいものとなっておりますが、当社は兼松グループの総合力を更に駆使しながら、生産者の皆様と共に、農業を更に強くして日本の産業の柱に育て上げていきたいと考えております。

当社はこれからも飼料製造から家畜の生産、畜産食品の販売まで一貫して携わり、社会と農業の未来に貢献してまいります。

### 【お問い合わせ先】

兼松アグリテック株式会社 飼料畜産本部 飼料畜産部

TEL 048-971-7793 (平日9:00~17:30 ※土日祝を除きます)

HP <https://www.k-agri.co.jp/>



## フィリピンの庶民的料理 5 品



Nippon Premium Bakery Inc.

瀧口 詩音

2024年6月より、研修生としてフィリピンのNippon Premium Bakery Inc.に赴任しております、瀧口と申します。突然ですが、フィリピンで「こんにちは」を何と言うかご存じでしょうか。英語では「ハロー」、中国語では「ニーハオ」、フランス語では「ボンジュール」と順調に思い付くところですが、タガログ語（フィリピンの公式言語）では「マガンダン・タンハーリ」といいます。フィリピンといえば、マンゴーとセブ島くらいしか思い浮かばなかった筆者ですが、早くも赴任して半年以上が経過しました。この度は、僭越



写真1 フィリピン・ボラカイ島のビーチ



ながら、フィリピンの食文化についてご紹介させていただきます。

## フィリピンの食文化

フィリピンは、東南アジアに位置している島国で、ルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島の3つの島群を中心として、7,641の島々から成り立っています。人口は1億人を超えていますが、平均年齢は24歳と非常に若く、今後の発展に大きな可能性を秘めている国です。民族的には主にマレー系が中心ですが、先住民や中国系フィリピン人なども多く、豊かな文化と多様性を誇っています。フィリピン料理は、文化的及び歴史的背景から、特にスペイン、アメリカ、アジア諸国の食文化が融合した形で発展しました。今回は、フィリピンの庶民的な料理を5品ご紹介します。

### 1. パンシット (Pancit)

パンシットは、フィリピンの代表的な麺料理で、炒めたり煮たりした麺に鶏肉、豚肉、エビなどの具材や野菜を加えた料理です。パンシットは、街角



写真2 お祝い事には欠かせない パンシット

の屋台でも見かけることが出来る定番料理で、特別な日やお祝い事には欠かせない一品として、家族や友人と共に楽しんでいます。特に誕生日には、長寿を願う意味を込めて、長い麺を食べる習慣があります。また、地域によってバリエーションが豊富で、ルソン島では「パンシット・カントン」、ビサヤ地方では「パ

ンシット・マラボン」など、各地で特色のあるパンシットを食べ歩くのもオススメです。

## 2. アドボ (Adobo)

アドボは、鶏肉や豚肉（時には牛肉）を醤油，酢，ニンニク，月桂樹の葉，黒胡椒でマリネし煮込んだフィリピンの家庭料理です。酢と醤油を基盤にした独特の酸味と塩味のバランスが特徴的で，肉は醤油と酢のソースでじっくりと煮込まれており，味がギュッと染み込んでいます。また保存が効くため，作り置きもできるそうで，現地のスタッフによると冷蔵庫で保存すると，味がさらに深くなり，食べるたびにその美味しさを感じる事が出来るとか。



写真3 家庭の定番 アドボ

アドボは，フィリピン全土で広く食べられており，地域によって多少の違いはあるものの，その基本的な作り方は共通しています。簡単で手

入しやすい材料で作れ，保存が効くアドボはフィリピンの食卓を支えてきた一品の一つです。

## 3. ブラロ (Bulalo)

ブラロは，牛の足や牛の骨を使ったフィリピンの伝統的なスープ料理で，特に地方の家庭料理として親しまれています。スープがとても濃厚で，肉が非



写真4 タガイタイで食べた、ちょっと高級なブラロ



写真5 マニラ南部 タガイタイの風景

常に柔らかくなることが特徴的です。ブラロには、コーンや野菜(キャベツ、サヤインゲン、タロイモなど)も加えられており、ヘルシーで栄養価の高い料理になっています。フィリピンでは、ブラロを食べることで元気になる信じられており、特に寒い時期や体力を消耗した時に食べられています。

筆者のおすすめは、タガイタイ(Tagaytay)(写真5)で試すことです。タガイタイはマニラ南部に位置しタール湖の絶景を見ることが出来る人気観光地で、ブラロの材料である牛肉の名産地でもあります。街をブラブラ歩いた後、ブラロでホッと一息ついてみてはいかがでしょうか。

#### 4. ジョリビー (Jollibee)

ジョリビー (Jollibee) は、1975年にフィリピンで創業されたファーストフードチェーンです。最初はアイスクリームショップとしてスタートしましたが、後にハンバーガーやフライドチキンなどを提供するファーストフード店へと進化しました。ジョリビーを筆頭にするメニューは「チキンジョイ」で、サクサクのフライドチキンと特製グレービーソースのセットがフィリピン人に大人気です。また、ハンバーガーの定番「ヤムバーガー」や、独自の甘いケチャップソースがかかった「ジョリビースパゲッティ」は、フィリピン人にとっては子供の頃から親しまれている味になっています。なお、フライドチキンを注文すると、白米がついてくることがあり、驚くかもしれませんが、これはお米を愛するフィリピン人ゆえのセットで、注文の間違いではありませんので、ご注意ください。

フィリピンは、マクドナルドがファーストフード部門で1位になれない唯一の国と言われており、街中にはジョリビーの店舗が東京都内のコンビニ並みに多く見られることから、その人気の高さが伺えます。かくい



写真6 街のジョリビーとマスコットのMr.Jollibee



写真7 フライドチキンと白米!? ジョリビーのセット

う筆者はケンタッキー派ですが、ジョリビーは世界中に店舗を展開していますので、機会があれば、是非一度お試しください。



写真8 夏にピッタリな ハロハロ

## 5. ハロハロ (Halo-Halo)

「ハロハロ」は、タガログ語で「混ぜる」という意味で、様々な食材を混ぜ合わせて作られるフィリピンの代表的なデザートです。基本的な材料には、氷、ミルク、豆類（レンズ豆やアズキ豆）、ジャム、フルーツ（バナナやマンゴー）、ウベ（紫色のサツマイモ）、アイスクリームなどが使用されており、色鮮やかな見た目が特徴的です。特に暑い夏に人気で、見た目は小さなパ

フェ、立ち位置は日本のかき氷をイメージしていただければと思います。フィリピンの街やビーチリゾートでも、ハロハロを提供するお店は多くありますので、フィリピンを訪れた際には、ハロハロを楽しみながら、「ハロー！」ではなく「マガンダン・タンハリー」と素敵なお会いを探してみてもよいかもしれません。

## 最後に

簡単な紹介ではありますが、フィリピンの食生活について、ご紹介させていただきました。フィリピンの食文化は、地域ごとの特色を反映しながらも、家族や友人との時間を大切にしている点が魅力です。料理を通じて人々の心が繋がり、食事の場がコミュニケーションの中心となっているように感じます。もしフィリピンを訪れる機会があれば、その温かい食文化を是非体験してみてください。最後までご一読いただき、誠にありがとうございました。

豊田通商株式会社

我が社の飼料・油糧原料  
担当者のご紹介

## ◆片岡 寿平 (かたおか じゅへい)

(アグリビジネス部コーン・大豆グループ)

皆様初めまして。豊田通商の片岡寿平と申します。出身は兵庫県，大都会神戸市と関西のハワイといわれる淡路島で育ちました。大学では大阪の田舎でアメリカンフットボールを専攻し，低くて速いタックルの研究に没頭しておりました。

2012年に豊田通商に入社し，だらだらと過ごしていたらいつの間にか13年が経っていました。

思い返せば，入社を機に意気揚々と上京し，毎日六本木でパーティ三昧を想像していたのですが，深夜残業三昧で遊びに行く時間などどこにもなく，プライシングとデリバリーに追われていたら2年目から大阪転勤となりました。六本木で青春出来なかったことは，人生最大の後悔となっ



ております。7年間の大阪勤務時代は飼料・油糧原料を中心に飼料・油脂・食品・畜肉・肥料など幅広い業界の方とお付き合いさせていただきました。その後数年間、三国間トレード担当及びブラジル実習を行った後に、国内の飼料業界に数年前に戻ってまいりました。日本の食を縁の下から支える事業に携わらせていただいているやりがいを感じながら、日々の業務に当たっているとこです。

プライベートでは、小学生のころからのファンであるヴィッセル神戸の応援をライフワークとしております。この間のJ1優勝も現地で見届けることが出来ました。2025年はアジアチャンピオンズリーグエリートもあります。豊田通商の同僚及びお客様には申し訳ございませんが、海外遠征により不在になるタイミングが増えてまいります。この場を借りて事前にご連絡をさせていただきます。

最後に日本の飼料業界発展のため、微力ながら尽力してまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

#### ◆安田 隆一郎（やすだ りゅういちろう）

（アグリビジネス部コーン・大豆グループ）

平素より大変お世話になっております。豊田通商の安田隆一郎と申します。2014年に入社しまして、同社にて現在までの10年間ずっと穀物に関わる仕事をさせていただいております。新入社員で最初に担当した主原料コーン・マイロの受渡業務に始まり、ブラジルでのポルトガル語語学研修と在ブラジル子会社NovaAgri社での実務研修、食品用コーンと搾油用大豆の買付と営業、在マレーシア関連会社Premier Grain社（飼料用コーン及び大豆ミールの同国向け輸入及び同国農家向け販売トレーディング事業会社）での駐在、そして現在は国内飼料主原料営業担当とNovaAgri社の事業管理を担当しております。

出身は東京都で小学生よりずっとバスケットボール部に所属して体育館で汗を流していました。大学ではヨットを少々と、出身母校の高校バスケット

ボール部にて学生コーチをしていました。就職活動中から商社の食糧関連で働きたいと思っていたのでとてもラッキーだと思っています。海外旅行は何度も行きましたが留学等は機会がなかったため、語学研修としてブラジルで1年間、学生をもう一度できたのはとても良い思い出になりました。

2024年はゴールデンウィーク頃からコーンを自分で植えてみました。アメリカやブラジルの背丈高く身が太い立派なコーンばかり見てきたので、なんとなくそんな感じのものが簡単にできるのではと思っていたのですが（こう思っている時点で、コーンという作物の事をまだまだ分かっていない証拠です）、これがなかなかうまくいきません。最初に芽が出て葉が付き始めた時は感動しましたが、結局はイヤーがIQOSのサイズくらいにしか育ちませんでした。2025年Cropはちゃんとした収穫物が採れるようにリベンジしたいと思います。



まだまだ実力不足、経験不足で大変恐縮ですが、引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。

#### ◆清水 麻里江（しみず まりえ）

（アグリビジネス部プロテイン・オイルグループ）

皆様、はじめまして。豊田通商の清水麻里江と申します。2020年に入社して以来、一貫して穀物に携わってまいりました。トウモロコシやマイロの受渡（プライシングや船の手配）を経験し、現在はブラジルにある綿実搾油会社のOLEOS MENU社及びタイにある飼料原料トレード会社のPGAGRO社の事業管理を担当しております。



簡単ではございますが、自己紹介をさせていただきます。出身は千葉県ですが、生まれてすぐに香港へ移り、そこで中学生まで過ごしました。カンフー映画のような喧噪の中で楽しい日々を過ごしましたが、日本の学生生活に憧れ、高校進学を機に帰国しました。学生時代は憧れであった部活動を始め、ラクロスに熱中する日々を送りました。大学の4年間は毎朝始発で練習に向かい、日中は授業、夜はアルバイトに課題と、非常に忙しい日々を過ごしました。

豊田通商に入社後、大学時代同様忙しくも充実した日々を送れるようにと、配属の際にはとにかく忙しい部署に配属してくださいと希望を伝えた結果、アグリビジネス部に配属されました。アグリビジネス部では実際にグループサ



イロでの研修やブラジルでの実習など、多くの充実した経験を積むことができました。

これらの経験を通じて、現地現物で穀物業界について学ぶと同時に、安定供給のためにサプライチェーンを止めないよう関わっている多くの関係者がいることを知り、その重要性を実感しました。

まだまだ未熟者ではございますが、これからも業務を通じて関わっている皆様への感謝の気持ちを忘れず、安定供給の一助となれるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



## 「新春賀詞交礼会」盛大に開催

新年恒例の飼料輸出入協議会主催「新春賀詞交礼会」が、1月7日(火)12時から1時30分まで東京・千代田区丸の内3丁目の東京會館3階ローズの間で盛大に開催されました。今年は昨年のような能登半島地震や航空機衝突炎上事故といった暗いニュースがなかったこともあり、当日は最寄り駅の東京駅や有楽町駅周辺では着物姿もちらほら見られるなど、久しぶりにコロナ禍前の新年の賑わいが戻ってきた感がありました。

交礼会会場は、11時20分の受付開始早々から飼料畜産業界はじめ、官庁、外国公館、当協議会会員商社の方々など約800名がご来場になり、約1時間半にわたりご歓談いただきました。ご参加いただいた方のほか、ご協力、ご理解いただいた方に御礼申し上げます。



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



## 春季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回も会場開催と同時にweb配信を行う予定です。どちらでのご参加を希望されるかも、お申し込みの際ご連絡いただきますようお願いいたします。

### 記

日 時：令和7年3月14日(金) 14時～15時30分

(会場開催の受付開始13時30分～)

場 所：新橋ビジネスフォーラム <https://biz-forum.jp/access>  
港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル 8 F TEL 03-5843-9169

演 題：「2025年の世界経済見通し」(仮題)

講 師：三菱商事(株) (予定)

参加料：無料 (定員となり受付できない場合のみこちらからご連絡差し上げます)

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 宮本宛 Email：jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp

電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

---

---

# New Balance

---

---

< 20 >

岩崎食料・農業研究所 所長

岩崎 正典

---

---



## 「米国ドル高と豊作見通しで、底値鍛錬が続いたシカゴ定期」

### \* 外部市場の騰勢が、底値感を広めた9月末のシカゴ定期

日本の先物市場では「彼岸底」と言う言葉で示されるが、これまで9月は年間を通じて、最も弱気に傾きやすい月であった。ところが、今年は株式市場が過去最高値を更新し、金先物は地政学的リスクの高まりと米国金利の引き下げの気配から、過去最高値の更新となった。そうした外部市場の動きは、シカゴの穀物市場でも弱材料の出尽くし感を促すことになり、世界各所の天候不順がそうした雰囲気を広めた。チャートの姿が好転すると、大手投機筋が大きな売持高の解消に着手し、FAO等の国際機関からも、4年振りの安値に戻った穀物市場に、目先の底値感を指摘する報告が続く中で、四半期在庫報告が発表された。

今回の四半期在庫報告は、トウモロコシや大豆の期首在庫が確定することで、収穫作業の進展と合わせて、新穀年度の供給体制により確実性が高まると理解された。今回発表された在庫数字は事前予想を下回ったが、前年同期を大幅に上回ったことで、10月の需給報告では需給の大幅緩和が示されるとする弱気の見方に傾いた。外部市場が、利下げはインフレを再燃させかねないとの懸念に変わり、中東の地政学的リスクの存在、そして最大のリスクとされる米国大統領選挙も含めて、商品及び株式市場の価格変動性が高まった。穀物市場を特徴付ける動きは、8月下旬の底打ち感と9月の上昇基調になったが、10月にその基調が継続するのかが、ファンダメンタルズの需給統計で、そ



の方向性が裏付けられるのが、今回の四半期在庫から判明した消費動向を加味した、10月度の需給報告での注目点になった。

**a. 四半期在庫報告（9月1日時点、単位は百万ブッシェル）**

	9月1日	事前予想	6月1日	前年同期	前年比
トウモロコシ	1,760	1,844	4,997	1,360	400
大豆	342	351	870	264	78

トウモロコシの四半期在庫は、市場の事前予想より84百万ブッシェル少なかったが、前年同期よりも400百万ブッシェルも多かったことで、需給の緩和感を印象付けた。農家在庫は780百万ブッシェルと全体の44.3%を占め、第4四半期の消費量は3,240百万ブッシェルと推定された。これは前年同期比18.2%の増加に相当し、輸出需要、エタノール消費そして飼料用途と全てに亘り、価格低下による消費の拡大と理解された。今年度の期首在庫は、9月予測は1,812百万ブッシェルであったが、今回の確認で52百万ブッシェル減少して1,760百万ブッシェルに改訂される。新穀の作柄見通しに変更がなければ、需要の増加により期末在庫は9月予測の2,057百万ブッシェルから100百万ブッシェル強の引き下げが必至との見方が浮上した。

大豆の四半期在庫は342百万ブッシェルで、市場予想を9百万ブッシェル下回ったが、前年同期より78百万ブッシェル上回った。この内111百万ブッシェルまたは32.5%が農家在庫であった。第4四半期の推定消費量は628百万ブッシェルで、前年同期を18%上回った。

**\* 期待外れに終わった10月度の需給報告**

中西部は収穫日和に恵まれて、大豆やトウモロコシの収穫が平年より少し早目に進捗していたことで、作柄見通しに変更はないと思われた。従い、今回は四半期在庫などで確認された足元の消費動向を、新穀年度全体にどのように展開させるのか、マクロ経済からの影響が注目された。4年振りの安値に伴う底値感が、安値による消費の拡大に発展するのか、そして供給余力の

増加に連動して、需要の増加が実現するのかが注目点になった。

今月の需給バランスの改訂は四半期在庫報告と作柄見通しの変更を反映した小幅な修正に止まり、ファンダメンタルズの基調変化に波及せずに終わった。米国の収穫作業が豊作に向かって着実に進捗していることで、小麦のロシア、大豆のブラジルなど、近い将来の懸念材料が覆い隠された報告と受け止められた。

需給報告後の穀物市場は、産地からのヘッジプレッシャーの高まりから、大豆を先頭に軟弱地合いが強まった。中東の情勢の緊迫化を反映して、原油相場が一月振りの高値を更新すると、穀物市場はメキシコ向けのトウモロコシ、仕向け地不明への大豆の大口輸出成約の報告が支援材料となった。10月度の需給報告の概要は次の通り。

## \* 米国農務省の10月度の需給報告

### a. 米国穀物生産高推定（単位は百万ブッシェル）

	10月推定	市場予想	9月推定	前年実績	前年比
トウモロコシ	15,203	15,155	15,186	15,342	▲139
大豆	4,582	4,579	4,586	4,165	+417

米国農務省は、今回単収見通しを前月より0.2ブッシェル多い183.8ブッシェル/エーカーに修正したことで、トウモロコシの生産高を17百万ブッシェル引き上げた。大豆の生産高も、単収見通しを前月より0.1ブッシェル少ない53.1ブッシェルとし、生産高を前月より4百万ブッシェル引き下げた。両者ともに、収穫予想面積は据え置かれた。

### b. 米国需給 期末在庫と農家価格見通し（単位は百万ブッシェル, セント）

	前年度 (今月推定/前月推定)	今年度 (今月予測/前月予測)	変化 (前年比)
期末在庫			
トウモロコシ	1,760/1,812	1,999/2,057	+239/245
大豆	342/340	550/550	+208/210
農家価格			
トウモロコシ	455/465	410/410	▲45/▲55
大豆	1240/1250	1080/1080	▲160/▲170

トウモロコシの前年度末在庫は、9月1日時点の四半期在庫報告で確認された1,760百万ブッシェルになり、前月予測より52百万ブッシェルの下方修正になった。旧穀の最終生産高を1百万ブッシェル引き下げた他、輸入を2百万ブッシェル引き下げた。一方総需要量を49百万ブッシェル引き上げて、14,969百万ブッシェルに修正した。産業用途計の数字は前月予測より7百万ブッシェル増の6,862百万ブッシェルに修正され、この内エタノール用途は6百万ブッシェル多い5,471百万ブッシェルとなった。飼料用途の項目は39百万ブッシェル増の5,814百万ブッシェルとなった。また、輸出需要は2百万ブッシェル増の2,292百万ブッシェルに上向き修正された。これらの微調整の結果、年間の農家価格は前月推定より10セント引き下げられて45セントになった。

トウモロコシの今年度末在庫見通しは、前月予測より58百万ブッシェル少ない1,999百万ブッシェルと示された。市場の事前予測より55百万ブッシェル少なかった。前年度からの繰越在庫の減少が、新穀の作柄見通しの改善で一部相殺され、供給の増加は33百万ブッシェルにとどまった。

今年度の総需要量は14,990百万ブッシェルと予測され、前月から25百万ブッシェルの増加になった。国内消費見通しは据え置きとなり、輸出需要が25百万ブッシェル増の2,325百万ブッシェルに引き上げられた。期末の対消費在庫率は、前月予測の13.75%から13.3%に低下するが、前年度の11.8%から改善が見込まれ、農家価格は前年度から45セント低下して、410セントで据え置きになった。

### c. 国際需給 (2024/25年度 単位は万トン)

今年度	10月予測	9月予測	前年度	前年比較
トウモロコシ				
生産高	121,719	121,857	122,592	▲873
貿易量	19,050	19,137	19,577	▲527
消費量	122,332	121,985	121,735	+597
期末在庫	30,652	30,835	31,265	▲613

世界のトウモロコシ産地の生産高と輸出余力は次の通り（単位は万トン）。

トウモロコシ		10月予測	9月予測	前年度	前年対比
米 国	生産高	38,618	38,573	38,967	▲349
	輸 出	5,906	5,842	5,823	+83
欧 州	生産高	5,900	5,900	6,145	▲245
	輸 入	1,900	1,900	1,950	▲50
ロシア	生産高	1,300	1,350	1,660	▲360
	輸 出	330	380	620	▲290
ウクライナ	生産高	2,620	2,720	3,250	▲630
	輸 出	2,300	2,400	2,960	▲660
中 国	生産高	29,200	29,200	28,884	+316
	輸 入	1,900	2,100	2,350	▲450
ブラジル	生産高	12,700	12,700	12,200	+500
	輸 出	4,900	4,900	4,600	+300
アルゼンチン	生産高	5,100	5,100	5,000	+100
	輸 出	3,600	3,600	3,200	+400
南アフリカ	生産高	1,700	1,700	1,340	+360
	輸 出	320	320	200	+120

トウモロコシは、前年度からの繰越在庫が300万トンほど多くなったが、これは南米諸国の需給統計の修正によるもので、アルゼンチンで250万トン、ブラジルで100万トンの上向き改定があった。世界全体で前月比の期末在庫の減少は、米国で150万トンの期末在庫の低下が大半を占めた。減産が発生した黒海沿岸の影響は、米国と南米からの輸出余力で埋め合わせるとの予測になった。輸入側では貿易量の縮小に繋がっているのが、中国の輸入見通しが前年比で450万トンの減退と見込まれたことで、大豆の輸入見通し減退と合わせると、畜産物の需要に踊り場が出ている可能性が高く、今後とも注視が必要になった。

#### \* 世界各地の天候不順が次第に小康状態に向かう

10月の需給報告後は、トウモロコシで4ドルの節目が下値支持線としての働きを強め、好調な輸出需要が支援材料になって上値余地が試された。大豆

は収穫作業が終盤に向かう一方で、輸出の最盛期を迎えたことから、期近限月が10ドル台の復帰に挑戦したが、ブラジル産地の降雨が上値を抑制した。

ブラジル中央部とアルゼンチンの農業地帯では、10月半ばから播種とその後の発芽に必要な降雨が観測されるようになり、季節的な降雨が期待できる天気予報が示されて、実際の降雨範囲と雨量が鍵になった。南米の作柄予想の専門家は、主産地マトグロッソ州の大豆は4割が播種の適期を逃しているとし、その影響は後作の二期作トウモロコシの播種時期にも及ぶ可能性を指摘していた。また、アルゼンチンのロザリオ穀物取引所は、前週の降雨で生育環境が一変したと報じた。穀物市場は半年遅れになる南米産地の播種作業の始まりとともに、ラニーニャ現象による、南米産の大豆やトウモロコシ生産への影響に関心を高めた。近年の記録では2020/21年度はブラジル、2021/22年度はアルゼンチンで干ばつ気候による減産が発生した。昨年もブラジル中西部の天候は必ずしも順調ではなかったし、アルゼンチンも降雨不足となり、その結果は南米の穀物輸送の大動脈になるパラナ川水系や、北部のアマゾン川水系の水位の低下になって顕在化した。ラニーニャ現象の強まりとの時期的な関連から、年末に向かって、ブラジルでは大豆の収穫期のみならず、後作になる二期作トウモロコシの播種時期への影響に関心が強まった。

今年秋の世界各地の天気は、どうやら季節の到来が遅れていたらしく、10月後半になると欧州からは雨がちの天気が、東欧から黒海周辺部へと降雨域の移動が報じられる一方、ブラジルやアルゼンチンの穀倉地帯にも恵みの雨が報告されるようになった。軽度のラニーニャ現象で終わることになれば、現在土壤水分不足が懸念されている世界の主産地での水分不足の深刻化が回避される可能性が浮上したことで、市場心理を弱気にさせた。そして、月曜日引け後の週間作況作柄進捗報告でも、大豆に続いてトウモロコシの作況評価が、収穫の進捗が半分を超えたことから発表されなくなった。天候相場特有の取引材料が失われつつあることで、シカゴ定期の取引は外部市場からの話題に影響されやすくなった。

10月下旬になると、トウモロコシや大豆は、中西部の収穫作業が最終段階を迎える一方、収穫期の安値は見逃せないとする、国内外の実需家による押し目買いの動きで、好調な輸出成約が続いたが、それを上回る新穀の出回りが上値を抑制した。大豆は南米産地の季節的な降雨の開始が弱材料となって、10ドルの節目を割り込むようになり、トウモロコシも輸出成約は順調だが、狭い値動き圏の中で大豆にツレ安となった。外部市場では、米国大統領と議会選挙の結果は、行政府のみならず上院・下院ともに共和党が多数派になる可能性があるとの感触が広まり、米国の農業・通商や環境及びエネルギー政策が、タカ派色を強めるとの見方が語られるようになった。

### \*強まる「もしトラ」から「またトラ」への気配

外部市場の話題は、11月5日の大統領選挙の帰趨に集中した。ハリス候補は副大統領であるが、これまで彼女自身による具体的な施策が示されていないので、市場はバイデン政権の継承、またはオバマ3.0と理解した。一方、外交面で米国第一主義を強烈に打ち出したトランプ前大統領の返り咲きは、海外では不確実性の増大として懸念されている。バイデン政権を与し易いと見ていた海外の指導者が、米国の外交路線が変更になる可能性に神経を尖らせた。経済政策に関しては、これまでのトランプ候補の発言が、関税の大幅引き上げを通じてのインフレ懸念と財政赤字の増大と受け止められた。このシナリオに沿って、トランプ・トレードと称して、国債利回りの上昇を通じた米国ドル高及び安全資産への需要増加の結果、金先物は2,800ドルの最高値を更新した。

中東情勢は、イスラエルが対イランへの報復攻撃を手加減したことで、小康状態を見せたが、メディアの報道はバイデン政権のレイムダック化を先取りして、紛争当事者間に停戦の意向が感じ取れないと報じた。そして、ウクライナ戦争は、冬將軍の到来を念頭に、ロシアが北朝鮮軍の応援を得て、攻勢に転じる可能性が報じられた。こうした国際紛争の数々は、米国の大統領選挙結果が判明しても、一気呵成に解決の方向に向かうことはあり得ない。ト

ネルの先に、明かりが見えるようになることが、せめてもの希望的観測になった。全てが模様眺めの雰囲気を含めたが、雇用統計が前月比大幅な雇用の減少を見せると同時に、米国の経済指標が景気の減速を示唆した。次回のFOMCでも0.25%の利下げが行われるものとの理解の下で、原油相場との連動性が高いCRB指数は、過去一年間の値動き圏の丁度中間で様子見になった。金先物に代表される、安全資産への需要が更に強まるのか、それとも景気がこれ以上は悪くならないように、中国を始め各国の景気テコ入れの効果により、需要の増加になって顕れるとする楽観論になるのか、いずれにしても、まずは米国経済のリーダーシップが確定することが先決とされた。

#### **\*南米産地の天気改善で、ブラジルの二期作トウモロコシに安心感が浮上**

10月前半までは季節外れの高温乾燥気候が懸念された南米産地でも、10月後半からブラジル中西部で纏まった降雨が観測されるようになり、11月にも追加の降雨が期待できる天気予報になった。アルゼンチンの穀倉地帯でも土壌水分の回復ができた。両国とも主産地で追加の降雨が必要とされるが、初期の生育環境は大幅に改善した。南半球の天候が回復したので、11月度需給報告は、供給側での大きな変更は考え難く、現在の価格水準で需要側に変化が生まれているのかどうかの確認になった。

ブラジルの大豆播種作業は急速な進捗を見せて、前年同期比で僅か4%の遅れになったので、大豆の生育の柔軟性を考えると、天候による生育遅れは大きな問題ではないと判断された。南米の作柄予測の専門家は、大豆の播種進捗により二期作トウモロコシの播種時期への懸念が軽減されて、二期作トウモロコシが理想的な播種時期内に播種を済ませるには十分な時間の余裕が生まれたと判断した。土壌水分不足で大豆の播種を見送っていた農家は、二期作トウモロコシよりも水分耐性の高い作物、ソルガムや雑豆などの栽培を検討する可能性が指摘された。

11月を迎えて、市場の不確定要因は穀物需給ではなく、米国の大統領選挙結果になった。共和党のトライフエクタになるのか、それともオバマ政権後

期のようなネジレ議会で、何も進まない時代に戻るのか、それとも開票結果次第で、暫くの間は米国で何も決まらない混迷に陥るのか、世界の市場関係者は固唾をのんで、その結果を見守っていた。

北半球の穀倉地帯は収穫作業が最終局面に移り、来年産の冬作物の播種も終わり、休眠期入りが近づいた。天候相場から需給相場に切替わる時期になったが、今年度の追加供給の多寡を握る南半球の播種と初期生育動向よりも、市場は米国の大統領選挙と議会の改選結果を注視した。10月を通じて、好天に恵まれて収穫が大いに捗ったことは、10月度で示された米国産トウモロコシの生産高15,203百万ブッシェルと単収183.8ブッシェル、そして大豆の生産高の4,582百万ブッシェルと単収の53.1ブッシェルと言う大豊作見通しに大きな変更余地は少ないと判断された。従い、4年振りの安値に戻ったことによる需要動向を、どのように米国農務省が判断するのかに、市場の注目が集まった。

#### **\*外部市場のトランプ・ラリーに、トウモロコシや大豆はツレ高の展開**

11月上旬はトウモロコシの収穫が終盤を迎える中、輸出需要が好調さを持続し、エタノール用途の消費も順調なことから大幅続伸となった。大豆は、中国向けを始めとする好調な輸出成約が継続した上に、大豆油の輸出需要が加わって50日移動平均線を越えた。市場では、トランプ次期政権が動き出して米中間の貿易環境が一段と悪化する前に、中国の実需家が前倒しの調達を進めるとの推測が語られた。

米国農務省の11月度需給報告を金曜日（8日）に控えて、月曜日の引け後に週間作況作柄進捗報告が発表された。トウモロコシの収穫は91%の完了、平年は75%と大幅に前倒しで進み、大豆の収穫完了は94%に進捗した（平年は85%）。

一方、南米ブラジル大豆の播種は、2020/21年度以降で最も遅い開始になったが、10月後半の2週間は過去2番目に早い進捗を見せて月末を迎えた。AgRural社によると、10月末時点で大豆の播種は前週より18%進展して54%



の完了に達し、前年同期比では3%早くなった。トウモロコシの播種は59%の完了となったが、前年比では7%の遅れが生じた。南米産作物予測の専門家によるとブラジル産大豆の生産高は165百万トン、トウモロコシは125百万トンと予測されている。ブラジル産地で天気の回復が続いて、大豆の播種と初期生育が急速に進捗することで、大豆の後作になる二期作トウモロコシの栽培面積への懸念が和らいだ。

### \* 予想を上回る単収の低下で作柄推定の下方向修正になった11月の需給報告

11月度の需給報告は北半球の収穫がほぼ完了した段階で、今年度の供給体制がより明確になると期待されていた。また、米国農務省の輸出統計は、米国の輸出成約の増加を示し、輸出需要の引き上げも期待された。所が、米国農務省がトウモロコシと大豆の単収見込みを引き下げたことで、米国需給は小幅な引き締め予測に修正された。

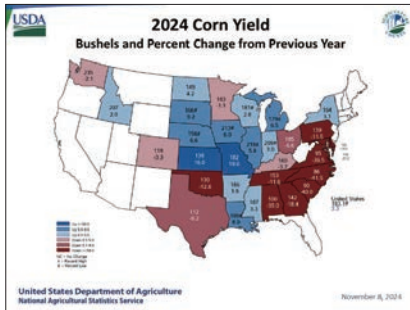
#### a. 米国生産高推定の見直し（単位は百万ブッシェル）—単収見通しの引き下げ

	11月推定	市場予想	10月推定	前年実績	前年比
トウモロコシ	15,143	15,189	15,203	15,342	▲199
大豆	4,461	4,557	4,582	4,165	+296

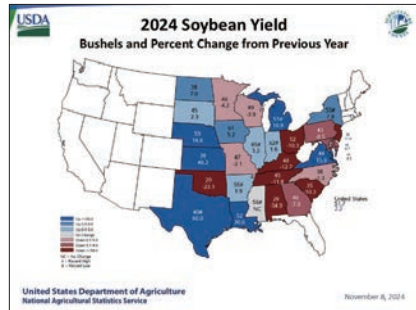
トウモロコシの生産高推定は、前月より60百万ブッシェル少ない15,143百万ブッシェルになった。単収見通しが前月より0.7ブッシェル低下して183.1ブッシェル/エーカーになったことが災いした。収穫予想面積には変更はなかったが、収穫面積の大きなイリノイとネブラスカの単収引き下げが、生産高の下方向修正に影響した。

大豆の生産高推定も4,461百万ブッシェルと、前月より単収が1.4ブッシェル少ない51.7ブッシェルに引き下げられたことが影響して、121百万ブッシェルの減産が見込まれたが、前年対比では大增産に変わりはない。東西の主産地イリノイとアイオワでの引き下げで、予想を上回る減産になった。

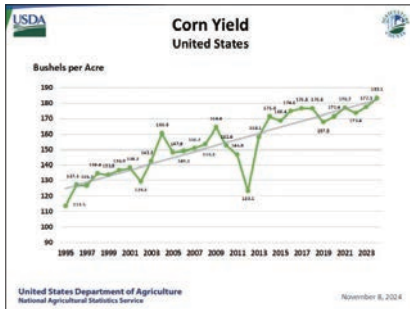
トウモロコシの単収（前年比）



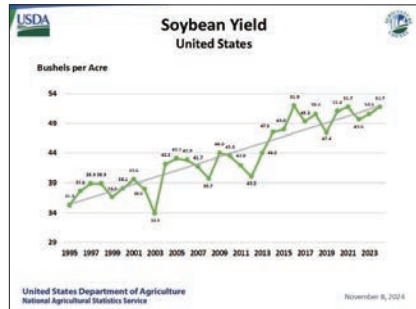
大豆の単収（前年比）



トウモロコシの単収推移



大豆の単収推移



b. 米国需給 期末在庫見通し（単位は百万ブッシェル）—前月比小幅な引き締めり

	11月	10月推定	前年度末	変化（前月／前年）
トウモロコシ	1,938	1,999	1,760	▲61／+178
大豆	470	550	342	▲80／+128

トウモロコシの期末在庫は、前月より61百万ブッシェル減の1,938百万ブッシェルに下方修正された。生産高推定の引き下げを反映した供給総量の減少によるもので、需要項目に変更はなかった。飼料用途は5,825百万ブッシェル、産業用途等はエタノール用途の5,450百万ブッシェルを含む6,840百万ブッシェル、そして輸出需要は2,325百万ブッシェルと全てが据え置きになった。期末在庫は減少して、対消費在庫率では前月予測の13.3%から12.9%にと、需給は少し窮屈になったが農家価格見通しは410セントで据え置きになった。

c. 国際需給（2024/25年度 単位は万トン）—変化に乏しい内容になった

今年度	11月予測	10月予測	前年度	前年比較
トウモロコシ				
生産高	121,940	121,719	122,911	▲971
貿易量	18,983	19,050	19,565	▲582
消費量	122,948	122,332	121,948	+1,000
期末在庫	30,414	30,652	31,422	▲1,008

今月は、トウモロコシの期末在庫は、10月予測より2.4百万トン少ない304.1百万トンと、概ね中国の輸入減退に伴う在庫の減少によるものであった。世界需給の全体像は、小麦やトウモロコシの需給が引き締まり傾向との印象を受けるが、世界の主産地の生産高と輸出余力を見ると、小麦は黒海沿岸から欧州一帯の作柄の悪さと輸出余力の低下は、米国、カナダそして豪州という伝統的な輸出国の豊作で埋め合わせることが可能と判断された。しかし、輸出市場への供給という視点では、悪天候により大減産になったユーラシア大陸西側、及びロシアやウクライナの輸出余力の低下という、ウクライナ戦争による影響が不安材料になっている。一方、トウモロコシの生産高と輸出余力は次のように示された（単位は万トン）。

トウモロコシ		11月予測	10月予測	前年度	前年対比
米 国	生産高	38,464	38,614	38,967	▲503
	輸 出	5,906	5,906	5,823	+83
欧 州	生産高	5,880	5,900	6,145	▲265
	輸 入	1,900	1,900	1,950	▲50
ロシア	生産高	1,300	1,300	1,660	▲360
	輸 出	330	330	660	▲330
ウクライナ	生産高	2,620	2,620	3,250	▲630
	輸 出	2,300	2,300	2,960	▲660
中 国	生産高	29,200	29,200	28,884	+316
	輸 入	1,600	1,900	2,341	▲741
ブラジル	生産高	12,700	12,700	12,200	+500
	輸 出	4,800	4,900	4,400	+400

アルゼンチン	生産高	5,100	5,100	5,000	+100
	輸出	3,600	3,600	3,300	+400
南アフリカ	生産高	1,700	1,700	1,340	+360
	輸出	280	320	200	+80

トウモロコシは、今年度の期末在庫が238万トン下方修正されたが、米国の作柄見通しの悪化によるもので、他の主要生産国の数字は、収穫統計による欧州の作柄の下方修正に限られた。今のところ、南半球の作柄見通しに不安がなく黒海周辺での減産、輸出余力の減少は、南米産地の増産で相殺できる見通しである。10月前半までは乾燥気味の天気が、大豆の後作になるブラジル二期作トウモロコシや、アルゼンチンのトウモロコシの作柄懸念になったが、10月後半からは平年通りに降雨が始まり、作柄懸念が解消に向かった。収穫日和の下で早目に収穫が終盤に移った米国は、その乾燥気候がトウモロコシの単収の小幅な下方修正に波及したが、需要の手控えを促すような減産ではなく、米国への輸出需要は隣国メキシコやアジア諸国向けに安定的な成約が続いた。世界全体の期末在庫の減少は、米国で154万トンの低下と、中国の在庫減少307万トンとが大半を占めている。中国の輸入見通しが前年度から741万トンの減退と予測されたことで、畜産物の需要に踊り場が出ている可能性が懸念された。

トウモロコシや大豆は、米国での収穫が順調に捗ったが、最終局面を迎えて、過乾燥による単収の減少が不安視されるようになった。あまり深刻な問題とは思えないが、米国農務省が生産高推定の下方修正に動いたことで、市場に不安感が浮上した。これまでは、豊作の年は後追いで作柄が大きくなるとの通説であったので、1月の最終生産高推定を聞くまでは、新穀の供給量に対する不確実要因が残ることになった。こうした、需給の引き締まりが支援材料となり、トウモロコシが50日線を上抜けたことや、大豆が10ドル台を回復したが、その原動力は大統領選挙でトランプ前大統領の返り咲きが確定的になったことで、外部市場でのトランプ・ラリーに追随した部分が大きいと理解された。

そして、チャートの姿がダブルボトム型、もしくはそれに近い姿を示すと、市場は「収穫期の底値を見た」と言う感触を強めた。トウモロコシは、南米産地の端境期に向かい、黒海沿岸地区の供給余力も乏しいので、今年は米国産に輸出需要が入り易い環境にある。

米国の生産動向は一旦、春先まで中断の様相を強めているが、トランプ前大統領の返り咲きが確定するとともに、株式市場のトランプ・ラリーがシカゴ定期にも波及した。穀物市場はトランプ氏の勝利が伝えられた水曜日から活気が戻ったので、外部市場の「もしトラ」から「またトラ」への変化を好感する動きに連動したことになる。株式市場が最高値を更新して、法人税の引き下げや規制緩和を先取りする動きを見せたが、農業界では具体的な手掛かりがない中で、トウモロコシや大豆が買われることになった。米国ドル高の動きは、米国産穀物の輸出競争力を弱めるので、決してシカゴの穀物市場には好ましい材料とは言えず、なんとなくムードによる実物商品買いの連鎖が起こったと言える。

### \* 米国農務省から新穀年度の暫定需給見通しが公表された

大統領選挙後は、市場全体が「またトラ」現象に影響されて、穀物独自の取引材料が目立つことはなかった。収穫日和の定着と受け止められた今秋の温暖乾燥気候は、単収の阻害要因になって浮上して来た。一方、米国農務省は10月度の需給予測を出発点として、次年度2025/26年度から向こう10年間の長期予測を行い、例年1月下旬に発表される長期予測の内、次年度分を11月の需給報告と同時に公表した。2月下旬の農業観測会議の直前に再度見直しされる予定なので、差し当たっては暫定的な新穀年度の予測という扱いになる（単位は、百万エーカー、百万ブッシェル、セント/ブッシェル）。

( ) は今年度

	作付面積	生産高	期末在庫	農家価格
トウモロコシ	92.0 (90.7)	15,305 (15,203)	2,269 (1,999)	390 (410)
大豆	85.0 (87.1)	4,420 (4,582)	515 (550)	1,000 (1,080)

株式市場はトランプ・ラリーで盛り上がったが、米国農務省による新穀の需給見通しは、天候が平年並みに推移すれば、トウモロコシや大豆に大きな変化（上振れ）は期待できないとする机上計算になった。

### \* ブラジルの豊作と通貨安が気懸りな、感謝祭休日前後の穀物市場

11月後半はトランプ次期政権の政策に対する、市場の好意的な評価、規制緩和と減税の組み合わせが米国の経済成長を推進するとの楽観論が、米国ドルを2年振りの高値に押し上げた。その結果、輸出市場で米国産農産物の競争力を減退させることで、圧迫材料になった。大豆は、ブラジルと中国との間で、一带一路に代替する経済協力協定に調印される等、ブラジル中西部の降雨ともども、年明けから国際市場での競合が激化する可能性を印象付けたことで、10ドルの節目を割り込んだ。一方トウモロコシには、小麦の上昇が比価の観点から割安感を生んで、小反発を見せた。

感謝祭休暇に向かって、シカゴ定期の値動きは全体として穏やかであったが、トウモロコシと小麦の価格差は、小麦が米国大平原の降雨による作況評価の改善から値位置を切り下げる一方、旺盛な需要が見込めるトウモロコシの反転上昇により、急速に格差を縮小させた。これ以上小麦の価格が下落すると、飼料穀物の仲間入りする水準になることが認識された。大豆とトウモロコシとの価格比も、ブラジルで二期作トウモロコシの増産意欲を維持する形で、トウモロコシの比価が高目に保たれた。米国農家の作付け計画に影響するのは2月の先物価格の平均値になるので、まだ面積確保を意識した価格形成が行われる時期ではないが、世界全体の需給バランスからすれば、新穀はトウモロコシの面積確保が優先されると予想され、大手投機筋が早目にトウモロコシを買持方針に変更した理由がその辺りにあると言われるようになった。

中西部でトウモロコシや大豆の収穫が概ね終了し、今年は農家が感謝祭休日を楽しめることになった。最終の作柄推定に不安は残るが、国内のエタノールや搾油需要が好調さを維持し、問題は輸出需要の出方になっている。大豆には、ブラジル新穀の大豊作とリアル安が圧迫材料になったが、ブラジル

の新穀が出回る2月までは、輸出市場が中国向け大豆の船積に専念する中、ミシシッピ川の水位の低下が災いして、結果的にトウモロコシの船積が手控えられることになった。

トウモロコシは、天候相場のほぼ大半を通じて大手投機筋が大きな純売持で過ごした後、需給相場の開始を前に買持に転じ、急速に買持高を積み増したことが、トウモロコシ需給の引き締まりを先取りするものと理解された。

そうしたシカゴ定期の展開の中で、G20会合でブラジルを訪問した中国の習近平国家主席が、ブラジルとの経済交流を深める37通の合意書に調印をしたと報じられた。農業を含む広範囲に及ぶ分野での協定が結ばれたが、もしトランプ次期大統領が中国に対する高率の輸入関税を課するのであれば、中国はブラジルとの間で交わしたと同様の協定を他の農産物輸出国にも拡大させるものと推察された。協定書は、農業分野、技術交流、貿易と投資、インフラ、エネルギーと鉱業など、多くの分野から成り立っているが、ブラジルでは自国産のソルガム、ブドウ、胡麻、そして水産物の中国向けに、輸出許可を取得したと報じられた。

農産物ではソルガムの協定が最も注目されるが、ブラジルのソルガムの生産高は2023年産の440万トンから、今回の協定で生産が急増すると見込まれる。これまでブラジルのソルガム輸出は極わずかであったが、中国は年間数百万トンの輸入国で、今年度も770万トンの輸入が想定され、その多くが米国からの供給に依存しているので、ブラジルの体制が整い次第、大豆のように中国はブラジル産の調達に切り替えが進むと想定されている。ブラジルは米国との関係悪化を懸念して、一带一路の経済圏構想への参加を見合わせていたが、それに類似の協定書を両国が交わしたことになり、トランプ次期政権の下でBRICS諸国との経済摩擦は益々激しくなるものと推測されている。

北半球の天候相場が終わり需給相場に戻りつつある中で、輸出市場から多くの話題が提供されたが、投機筋の思惑買いを刺激するまでには至っていない。この一月間に最も注目を集めたのは11月初旬から、投機筋がトウモロコシの取組指針を買持に転換したことであった。おそらく、米国農務省の作柄

推定が、市場の予想とは異なり単収見通しの下方修正になったことで、ブラジルの二期作トウモロコシが市場に出回る来年7月までの長期間を、専ら米国産が供給責任の大半を担う可能性に備えが必要と、外部市場からの参加者が判断したと推察できる。

### **\* 軟弱地合いで始まった今年度の需給相場**

日本の暦で「大雪」の候を迎えて、北半球の穀倉地帯では冬作物が休眠期に入ると同時に、南半球の穀物産地は冬小麦の収穫が進捗した。2024/25年度で区切られる穀物年度は北半球で実現した穀物生産に、南半球からの追加供給が始まる時期を迎えた。12月10日に米国農務省から12月需給報告が発表され、トウモロコシに予期せぬ需給の引き締め予測が示されたが、シカゴ定期は10月初旬の高値452セントを超えなかった。米国農務省はエタノール用途の消費拡大と輸出需要の大幅な増加見通しから、米国のトウモロコシ期末在庫を下方修正して前年末比で微減と予測したことで、国際需給も急速に引き締まる見通しになったが、南米産地の豊作見通しからシカゴ定期は450セントが上値抵抗線に働いた。大豆は、米国の需給バランスが据え置きになったが、南米産新穀の良好な生育見通しとブラジルのリアル安が止まらず、国際市場の競合激化を想定した農家価格見通しの大幅引き下げを行ったことで、シカゴ定期は10ドルの節目で上値が抑制された。需給相場に相応しく、米国農務省はトウモロコシを先頭に需要の引き締まりを示唆したが、市場の反応は米国ドル高基調から、差し迫った供給への不安とは受け止めなかった。

### **\* 米国農務省の需給バランスは、トウモロコシ需給が引き締まる見通し**

12月の需給報告は、米国産の作柄推定や四半期在庫調査などの統計資料抜きになるため、市場関係者の関心が低い報告の一つになる。ところが、今回は米国農務省がトウモロコシのエタノール用途で50百万ブッシェル、輸出需要で150百万ブッシェル、合計200百万ブッシェルの需要増加を見込み、期末在庫をその分だけ引き下げた。大豆の需要見通しは据え置きで発表されたが、



農家価格見通しが60セントも下方修正され、前年比では220セント安の1,020セントに引き下げられた。需給が引き締まったトウモロコシや小麦の農家価格は据え置きになったことで、やや違和感を与えている。来年、1月度の需給報告は、四半期全米在庫調査や、トウモロコシと大豆の最終生産高推定、更には新穀冬小麦の播種面積推定の発表が予定されるので、より精緻な需給見通しが先送りされたとの印象を与えた。

米国需給 (単位は百万ブッシェルとセント／ブッシェル)

	12月予測	11月予測	前年度末	相違 (前月／前年比)
トウモロコシ				
期末在庫	1,738	1,938	1,760	▲200／▲22
農家価格	410	410	455	unch／▲45
大豆				
期末在庫	470	470	342	unch／+128
農家価格	1,020	1,080	1,240	▲60／▲220

トウモロコシは供給側の数字に変わりにはなかったが、需要見通しの改善から期末在庫が予期せぬ形で200百万ブッシェルも引き下げられた。対消費在庫率では前年度の11.8%を下回る11.4%に低下が予測されるが、農家価格は前年実績の455セントを下回る410セントで据え置かれた。エタノール用途の消費見通しは、前年比22百万ブッシェル増の5,500百万ブッシェルにと前月予測より50百万ブッシェル引き上げられた。輸出需要見通しは前年比183百万ブッシェル多い2,475百万ブッシェルにと、前月予測より150百万ブッシェル引き上げられた。足元の成約累計が前年同期比33%増で進捗していることが評価され、国際市場で米国産への依存度が季節的に高まっていることが反映された。

**\*世界の需給バランスは、トウモロコシ需給が急速に引き締まる見込み**

トウモロコシ需給は、米国産への需要増加を埋め合わせる可能性のある、南米産の作柄改善が時期的に確認できなかったことで、期末在庫が大幅な減少見通しに急変した。播種作業の進捗するアルゼンチン、大豆の後作になるブラジル二期作の生育動向と輸出余力が、流通年度後半の国際需給に大きな影

## トウモロコシの需給

(単位：万トン)

	12月予測	11月予測	前年度	相違 (前月/前年比)
生産高	121,789	121,940	122,963	▲151/▲1,174
消費量	123,766	122,948	121,807	+818/+1,959
貿易量	19,304	18,983	19,303	+321/+1
期末在庫	29,644	30,414	31,622	▲770/▲1,978

## トウモロコシの主要国の生産高

(単位：万トン)

	12月予測	11月予測	前年度	相違 (前月/前年比)
米 国	38,464	38,464	38,967	unch/▲503
中 国	29,200	29,200	28,884	unch/+316
EU	5,800	5,880	6,187	▲80/▲387
ウクライナ	2,650	2,620	3,250	+30/▲600
アルゼンチン	5,100	5,100	5,000	unch/+100
ブラジル	12,700	12,700	12,200	unch/+500
南アフリカ	1,700	1,700	1,340	unch/+360

## トウモロコシの貿易

(単位：万トン)

	2024/25年度	2023/24年度	2022/23年度	前年比
輸入国				
中 国	1,400	2,341	1,871	▲941
欧 州	1,950	1,979	2,319	▲29
メキシコ	2,450	2,476	1,939	▲26
輸出国				
アルゼンチン	3,600	3,300	2,524	+300
ブラジル	4,800	4,150	5,426	+650
ウクライナ	2,300	2,949	2,712	▲649
欧 州	250	330	439	▲80
米 国	6,287	5,823	4,222	+464

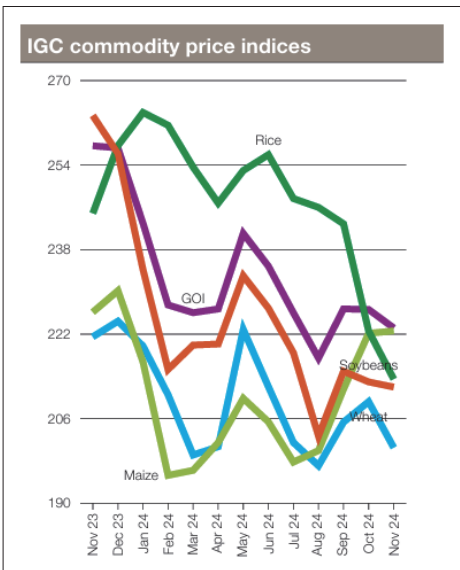
響を与えることになるが、南米産地では10月後半から天気が回復して、適度の降雨が観測されるようになったことが、新穀の作柄見通しに安堵感を与えている。北半球ではウクライナ及び黒海周辺、そしてEUの作柄が前年比減産になったことから輸出余力が低下して、米国産への輸出需要の回帰に反映

されている。

### \* 国際機関は、慎重ながらも4年振りの安値の継続を疑問視

米国農務省の月例報告に先立ち、AMIS（農産物市場情報機構）から12月度の月次報告が発表になり、IGCの指数を紹介しつつ、トウモロコシの国際需給に底打ちの感触と同時に、その他品目にはコメの急落、小麦や大豆の値位置は前年同期を下回る軟調と報告した。報告では大手投機筋が、トウモロコシに対する取組指針を買持に転換したことに注意を喚起し、今回の米国農務省の需給報告はそれに裏付けを与えたが、テクニカルな観点と米国ドル高という外部要因に加えて、南米産地からの豊作の手応えから、米国農家がヘッジ売りの追加に動き、トウモロコシは上昇トレンドを維持することはできなかった。「もうはマダ」となって、底値鍛錬に戻されて、休日シーズンに向かうことになった。トウモロコシそして大豆と、シカゴ定期で最も活発に取り引される商品が、4年振りの安値圏で年末を迎えるという、年初には想定で

＝IGCの商品別価格指数＝



きなかった展開になった。ところが、クリスマスが近づくと、ブラジルのリアル安に歯止めが掛らなくなり、南米産の供給圧力を受けた大豆は9ドル半ばに値位置を切り下げて約定安値を更新した。米国ドル高が最大の弱材料になった小麦も約定安値の更新に追い込まれ、小麦とトウモロコシの価格差は遂に100セントを割り込んで、小麦が飼料穀物の仲間入りをしたことを印象付けた。そして、ブラジル産地が大豊作の手応えを強めたことで、トウモロコシと大豆との

比価も、伝統的な価格比の2.45-2.50を割り込んで、2.15-2.20に低下して、米国農家にトウモロコシの増産を呼びかけることになった。

為替市場からの影響が急速に広まり、米国農家に「大豆の事は南米に任せて、トウモロコシに専念することを要請」しているように見える。12月度の需給報告が示したトウモロコシの需給引き締めへの対応を、早くも定期市場が声高に呼びかけることになった。今年は世界各地で頻発する天候不順が、世界各国の穀物生産に悪影響を及ぼすことが少なかったという稀に見る幸運な年であったが、来年はトランプ新政権の経済と通商政策が、国際貿易環境と米国ドルの水準にどのような影響を与えるのか、穀物市場を取り巻く環境は年末のシカゴ定期が示す通りに、外部市場からの影響が強まる可能性を示唆している。

(2024年12月25日 記)

#### USDA需給報告（米国産トウモロコシ）

報告月次	23/24年度				24/25年度			
	9月	10月	11月	12月	9月	10月	11月	12月
作付面積	94.6	94.6	94.6	94.6	90.7	90.7	90.7	90.7
収穫面積	86.5	86.5	86.5	86.5	82.7	82.7	82.7	82.7
単収	177.3	177.3	177.3	177.3	183.6	183.8	183.1	183.1
生産高	15,342	15,341	15,341	15,341	15,186	15,203	15,143	15,143
期首在庫	1,360	1,360	1,360	1,360	1,812	1,760	1,760	1,760
輸入	30	28	28	28	25	25	25	25
総供給量	16,732	16,729	16,729	16,729	17,022	16,989	16,928	16,928
飼料用途	5,775	5,814	5,807	5,807	5,825	5,825	5,825	5,825
産業用途	6,855	6,862	6,869	6,869	6,840	6,840	6,840	6,890
エタノール	5,465	5,471	5,478	5,478	5,450	5,450	5,450	5,500
国内消費	12,630	12,676	12,676	12,676	12,665	12,665	12,665	12,715
輸出需要	2,290	2,292	2,292	2,292	2,300	2,325	2,325	2,475
総需要量	14,920	14,969	14,969	14,969	14,965	14,990	14,990	15,190
期末在庫	1,812	1,760	1,760	1,760	2,057	1,999	1,938	1,738
在庫率(%)	12.1	11.8	11.8	11.8	13.7	13.3	12.9	11.4
農家価格	4.65	4.55	4.55	4.55	4.10	4.10	4.10	4.10

注：面積は百万エーカー、単収はブッシェル・エーカー、生産・消費は百万ブッシェル。

世界のトウモロコシ需給バランス

23/24年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 12月予測	30,466	122,963	19,713	77,278	121,807	19,303	31,622
中国	20,604	28,884	2,341	22,500	30,700	0	21,129
除 中国	9,862	94,078	17,372	54,778	91,107	19,302	10,493
米国	3,455	38,967	72	14,751	32,200	5,823	4,472
除 米国	27,011	83,996	19,641	62,527	89,608	13,480	27,150
メキシコ	459	2,350	2,476	2,950	4,810	3	472
アルゼンチン	232	5,000	2	1,100	1,525	3,300	409
ブラジル	1,004	12,200	130	6,350	8,400	4,150	784
欧州	808	6,187	1,979	5,830	7,810	439	725
ウクライナ	280	3,250	1	330	425	2,949	157
ロシア	91	1,660	5	910	1,020	660	76
南アフリカ	241	1,340	60	680	1,360	200	81
東南アジア	285	3,051	1,929	3,970	4,870	60	335
韓国	190	9	1,155	925	1,160	0	194
日本	130	1	1,529	1,200	1,530	0	130

単位は万トン。

24/25年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 11月予測	31,422	121,940	18,341	77,650	122,948	18,983	30,414
世界 12月予測	31,622	121,789	18,392	77,936	123,766	19,304	29,644
中国	21,129	29,200	1,400	23,100	31,300	2	20,427
除 中国	10,493	92,540	16,992	54,836	92,466	19,302	9,218
米国	4,472	38,464	64	14,796	32,298	6,287	4,415
除 米国	27,150	83,325	18,329	63,140	91,469	13,018	25,229
メキシコ	472	2,370	2,450	2,980	4,850	3	439
アルゼンチン	409	5,100	1	1,200	1,630	3,600	279
ブラジル	784	12,700	150	6,400	8,550	4,800	284
欧州	725	5,800	1,950	5,600	7,570	250	655
ウクライナ	157	2,650	2	350	445	2,300	64
ロシア	76	1,300	5	910	1,020	330	31
南アフリカ	81	1,700	0	680	1,360	280	141
東南アジア	335	3,086	1,960	4,130	5,040	56	285
韓国	194	10	1,180	950	1,185	0	199
日本	130	2	1,550	1,220	1,555	0	127

単位は万トン。

世界の大豆需給バランス

23/24年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 12月予測	10,110	39,487	17,766	33,093	38,399	17,747	11,216
中国	3,234	2,084	11,200	9,900	12,180	7	4,331
除 中国	6,876	37,403	6,566	23,193	26,219	17,740	6,885
米国	719	11,327	57	6,224	6,559	4,613	931
除 米国	9,391	28,160	17,709	26,869	31,840	13,134	10,285
メキシコ	22	19	646	653	659	1	27
アルゼンチン	1,700	4,821	779	3,655	4,380	511	2,408
ブラジル	3,682	15,300	87	5,470	5,825	10,417	2,797
パラグアイ	37	1,100	2	300	310	810	19
欧州	110	295	1,345	1,450	1,612	25	113

単位は万トン。

24/25年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 11月予測	11,242	42,540	17,791	34,615	40,228	18,171	13,174
世界 12月予測	11,216	42,714	17,818	34,742	40,364	18,197	13,187
中国	4,331	2,070	10,900	10,300	12,690	10	4,601
除 中国	6,885	40,644	6,918	24,442	27,674	18,187	8,586
米国	931	12,142	41	6,559	6,867	4,967	1,280
除 米国	10,285	30,572	17,777	28,183	33,497	13,231	11,907
メキシコ	27	21	670	665	671	0	47
アルゼンチン	2,408	5,200	600	4,100	4,860	450	2,898
ブラジル	2,797	16,900	15	5,400	5,810	10,550	3,352
パラグアイ	19	1,120	2	350	368	730	43
欧州	113	285	1,460	1,520	1,697	30	131

単位は万トン。

## 編 集 後 記



まずは1月7日に開催された賀詞交礼会に多くの方にご参加いただいたことに対し、改めて御礼を申し上げたい。円安、物価高の影響を大きく受けている中で、この会をどういう形で運営していくかは、当協議会事務局としては大きなテーマであり、皆様のご意見を是非頂戴したいと思っている。

ところで、去年は早々に能登半島の大きな地震、さらに羽田空港での大きな事故があり、年明け早々から気が重かった。私の個人的な話で恐縮ではあるが、生死の境をさまよったとは言わないまでも、数時間遅れれば命の危険に至った病気で、人生初の入院を経験した。個人的な面も含めて、去年は悪いことの多い1年であった。

しかし、いいこともあったので、ここで披露したい。若者が集まるボウリング大会に、オブザーバーのような立場で参加した。団体戦、個人戦で商品をかけた競技であり、仲間内のゴルフコンペのようなものである。

ストライクやスペアが出たら祝福するがそれだけではない。参加者の多くは普段からボウリングをしているわけではなくミスもする。その際でもハイタッチ、グータッチでお互いに声を掛け合う。非常にすがすがしかった。若者のこういうところを素直に伸ばせる世の中にしたいものである。よく年長者が「今の若い人は…」と言う。…の部分にはネガティブな言葉になるのが普通ではあるが、この時はポジティブな言葉しか思いつかなかった。

若者に至らないことがあったとしても、それは重要なことが上の世代から下の世代に伝えられなかったからかもしれない。年長者にはそういう自省があってもいいと思う。これからの日本の社会をよくする原動力になるのは間違いなく若者である。そして2025年はその第一歩になることを期待する。

10大トピックスでも触れられているが、牛由来の肉骨粉の利用解禁については、タイムリーな話題でもあり、急遽今号にご寄稿いただいた。厳しい業界環境の中、飼料原料の選択肢が増えて、国産飼料、ひいては国産畜産物が国際競争力をつけることを切に願う。

第61卷第1号／令和7年1月15日発行

発行人 姫野健二／発行所 東京都港区西新橋1-11-1 丸万一号館 飼料輸出入協議会

郵便番号 105-0003 電話 03(6457)9550